

令和4年度

宇都宮市教育委員会
点検・評価報告書

令和4年8月
宇都宮市教育委員会

～ 目 次 ～

はじめに	1
第1章 教育委員会評価の概要	
1 評価の趣旨	2
2 本市の教育委員会評価	2
3 評価のしくみ	3
4 評価対象・実施期間	3
5 評価の方法	4
6 外部評価委員	4
7 教育委員会の組織	5
8 教育委員の構成	6
第2章 令和3年度評価委員の所見への対応状況	
1 教育委員会点検・評価全般	7
2 教育委員会の活動状況	7
3 教育委員会施策	8
4 広報活動	9
第3章 教育委員会の活動	
1 教育委員会の活動状況	10
2 教育委員会活動にかかる教育委員の所感	16
第4章 教育委員会施策	
1 基本施策1「確かな自信と志を育む学校教育を推進する」の評価	18
2 基本施策2「生涯にわたる学習活動を促進する」の評価	34
3 基本施策3「誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する」の評価	40
4 基本施策4「暮らしに息づく文化の創造・活用を推進する」の評価	46
第5章 広報・広聴活動	
1 広報活動	50
2 広聴活動	52
第6章 総合評価	54
第7章 評価委員による所見	58
【参考資料】	
令和3年度 教育委員会付議案件等一覧	61
教育委員会施策ごとの評価一覧	66
一般会計予算と教育予算	67

～ はじめに ～

教育委員会制度は、首長からの独立、合議制、レイマンコントロールにより、教育の政治的中立性、継続性・安定性の確保や、地域住民の意向の反映を図るため、これまで様々な改正を重ねながら運用され、地方教育行政の基本的な制度として重要な役割を果たしてきました。

このような中、平成20年4月の法改正により、教育委員会の責任体制を明確にし、効果的な教育行政に資するとともに、住民への説明責任を果たすことを目的に、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うことが義務付けられ、本市においても、平成20年度から独自の点検・評価制度を構築・実施しているところであります。

また、昨今のいじめ問題を契機とした、教育委員会の責任所在の不明確さ、危機管理能力の不足などの課題が指摘されたことから、国において教育委員会の存続を含めた議論がなされた結果、平成27年4月の法改正により教育委員会制度改革が行われ、教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携の強化など、教育委員会がその職責を果たすことがますます求められております。

本市教育委員会においても、教育委員会制度改革に伴い、平成28年4月より教育長を代表とする新体制に移行し、総合教育会議などを通じて、市長と教育委員会とのより一層の連携強化を図っているところであります。

また、教育委員会会議において、教育行政にかかる基本方針や計画策定などの重要事項について審議するとともに、教育施設等への視察や教育関係者との懇談会などにより現場の状況を把握し、事務局との意見交換により教育施策への理解を深めながら、教育現場の意向や実態をより反映させた会議の運営に努めております。

本報告書では、令和3年度の教育委員会の活動状況や教育委員会が実施した施策全般について、外部評価委員のご意見等をいただきながら、点検・評価を行った結果をとりまとめました。

この結果を今後の更なる効果的な教育行政の推進に活かしてまいります。

令和4年8月

宇都宮市教育委員会

～第1章 教育委員会評価の概要～

1 評価の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下、「法」という。）」第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進するとともに、市民への説明責任を果たしていくため、宇都宮市教育委員会が実施する教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を実施する。

＜地方教育行政の組織及び運営に関する法律抜粋＞

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況※について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

※「その権限に属する事務」とは。

法第21条に規定される事務のうち「①教育委員会自ら管理・執行する事務」「②法第25条第1項の規定により教育長に委任されている事務」「③法令により教育長の権限とされている事務」及び、地方自治法第180条の2の規定により委任された事務が対象となる。

2 本市の教育委員会評価

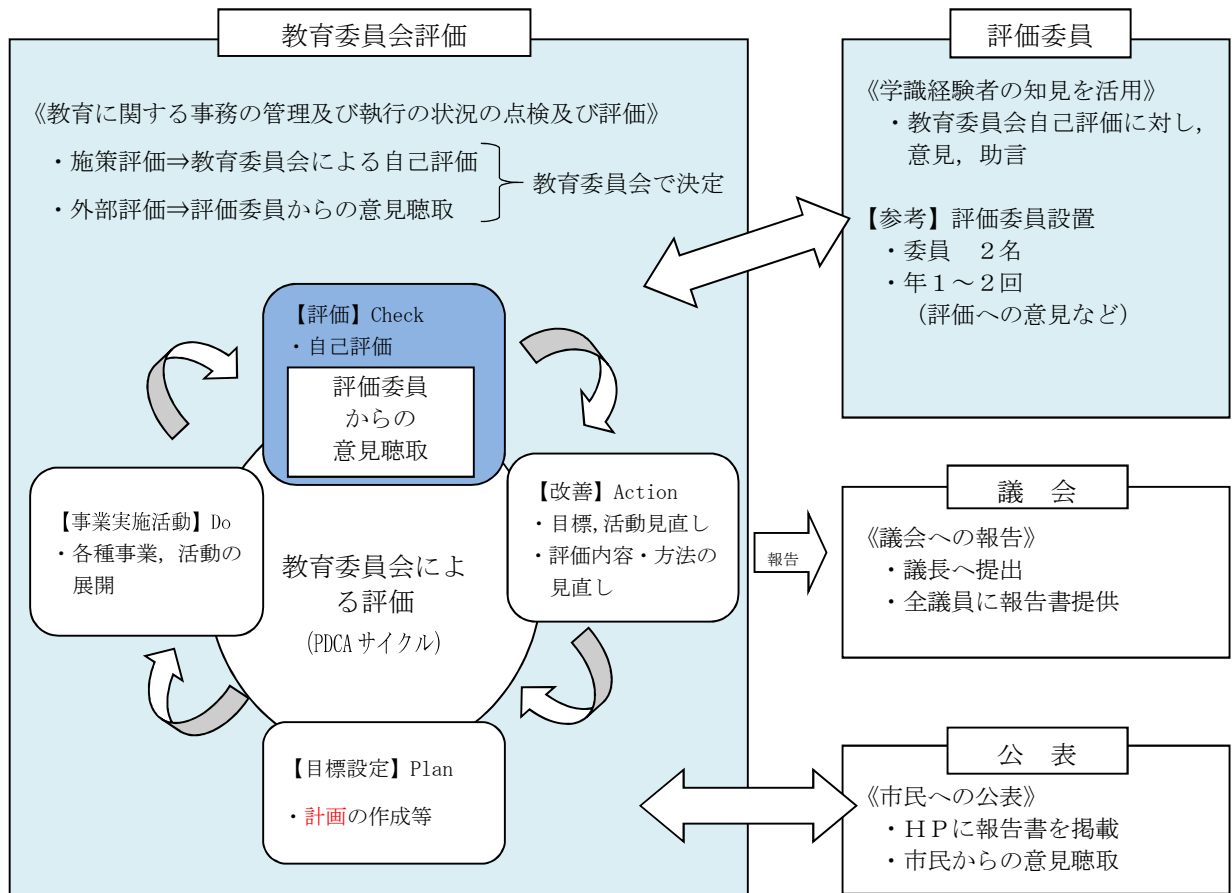
本市の評価においては、まず、「第1章 教育委員会評価の概要」において、教育委員会評価に関するしくみや評価方法について記載し、『第2章 令和3年度評価委員の所見への対応状況』において、昨年度の評価委員の所見に対する、教育委員会の対応状況を記載する。

次に、教育長と教育委員で構成される「教育委員会」の事務及び活動については『第3章 教育委員会の活動』で、また「教育委員会事務局」が実施する施策事業については『第4章 教育委員会施策』により評価を実施するとともに、本市が重点的に実施する広報・広聴活動の取組について、『第5章 広報・広聴活動』により評価を実施する。

最後に、『第6章 総合評価』により令和3年度の総合的な評価を実施し、『第7章 評価委員による所見』により自己評価に対する外部評価を実施する。

3 評価のしくみ

教育委員会により自己評価を実施し、自己評価に対し外部評価委員の意見を聴取する。



4 評価対象・実施期間

(1) 対象

令和3年度実施の教育行政全般とする。

- ◆教育委員会活動
- ◆教育委員会施策
- ◆広報・広聴活動

(2) 実施期間

令和4年4月～8月

5 評価の方法

(1) 自己評価

- ・各主管課及び教育委員会による自己評価の実施
- ・総合的な評価の実施
- ・次年度への課題，今後の方向性の明示

(2) 自己評価に対する評価委員からの意見の聴取

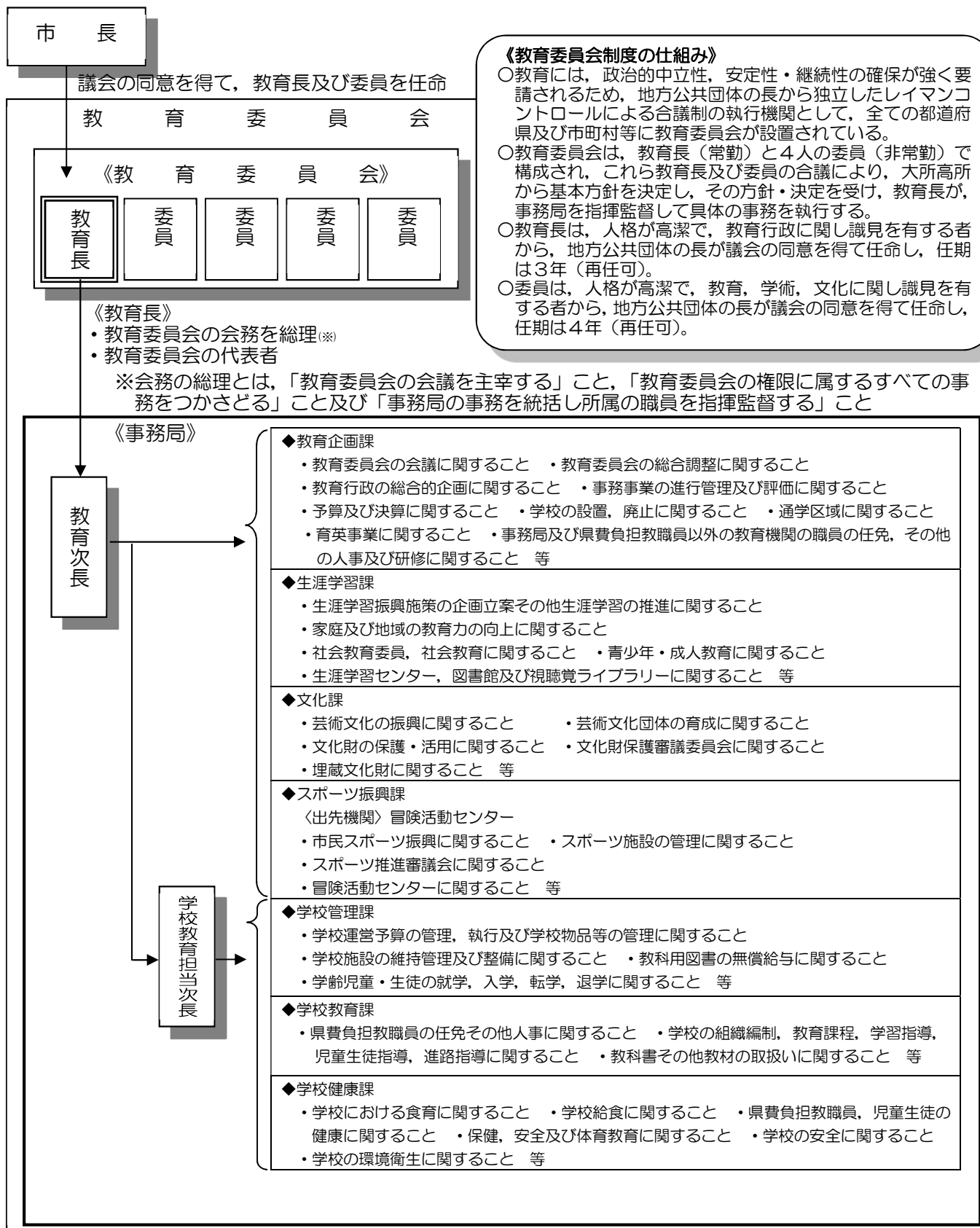
- ・教育委員会評価委員会議における意見の聴取
- ・評価票による意見の聴取

6 外部評価委員（学識経験者）

専門的かつ広い観点からの知見を期して，本市教育行政に大きく携わり，学校教育，社会教育全般における識見の高い方を委嘱

氏名	団体・役職名
藤井 佐知子	宇都宮大学理事・副学長
鈴木 明美	田原中学校魅力ある学校づくり地域協議会コーディネーター

7 教育委員会の組織（令和3年度）



《教育委員会制度の仕組み》

- 教育には、政治的中立性、安定性・継続性の確保が強く要請されるため、地方公共団体の長から独立したレイマンコントロールによる合議制の執行機関として、全ての都道府県及び市町村等に教育委員会が設置されている。
- 教育委員会は、教育長（常勤）と4人の委員（非常勤）で構成され、これら教育長及び委員の合議により、大所高所から基本方針を決定し、その方針・決定を受け、教育長が、事務局を指揮監督して具体の事務を執行する。
- 教育長は、人格が高潔で、教育行政に関し識見を有する者から、地方公共団体の長が議会の同意を得て任命し、任期は3年（再任可）。
- 委員は、人格が高潔で、教育、学術、文化に関し識見を有する者から、地方公共団体の長が議会の同意を得て任命し、任期は4年（再任可）。

学校その他の機関を所管

《教育機関》

小中学校 (94)	教育センター (1)	上河内学校給食センター (1)	図書館 (5)	生涯学習センター (18)	視聴覚ライブラリー (1)	美術館 (1)
--------------	---------------	--------------------	------------	------------------	------------------	------------

8 教育委員の構成（令和4年3月末時点）

職 氏名	教育長 小堀 茂雄	委員 伊藤 三千代	委員 大森 玲子	委員 檜山 昌彦	委員 小野 真一
任期	H31. 4. 1～ R7. 3. 31 (2期)	H30. 10. 1～ R4. 9. 30 (1期)	R1. 10. 1～ R5. 9. 30 (1期)	R2. 10. 1～ R6. 9. 30 (1期)	R3. 10. 1～ R7. 9. 30 (1期)
職業 (分野)	— (教育行政)	会社員 (地域活動)	大学教授 (学校教育)	会社経営 (産業経済)	弁護士 (法曹)

～第2章 令和3年度評価委員の所見への対応状況～

令和3年7月9日に「令和3年度教育委員会点検・評価」について、評価委員よりいただいた所見に対する対応状況は下記のとおりである。

1 教育委員会点検・評価全般について

No.	評価・意見	対応状況
1	<p>【点検・評価報告書表記の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第4章の個々の施策についてもグラフを用いるなどして、より視覚的に見やすいものとなるよう工夫したり、関連する調査結果やアピールポイントを掲載したりするなど、一層の理解を促すための方策を検討していただきたい。 文字や数字で表現されている部分をグラフ化することで、更にわかりやすい報告書となることが期待される。 	<p>第4章の教育委員会施策等についても、市民に分かりやすく、理解してもらいやすい報告書となるよう、<u>見出しの記載やグラフの活用</u>など、表記方法の工夫改善を図っていく。</p>

2 教育委員会の活動状況について

No.	評価・意見	対応状況
1	<p>【委員 de サロンの継続】</p> <p>実務者との意見交換を行う委員 de サロンは、委員の資質向上や教育委員会会議内での自由討議を充実させるために有効であり、引き続き推進していただきたい。</p>	<p>委員 de サロンについては、<u>実務担当者との意見交換等を通して、各課業務の現状・課題等に</u>係る共通理解を深めるために実施しており、引き続き教育委員会会議の開催とあわせて<u>適宜実施</u>していく。</p>
2	<p>【視察や教育懇談会の充実と工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 視察や教育懇談会などは、教育委員が教育現場の実態や意向、課題を的確に捉えることが議論の質を高めるとの観点から、一層の充実を図っていただきたい。その際、できるだけ多様な場、環境、対象を設定していくなどの工夫をお願いしたい。 視察や研修、意見交換会は実施回数だけにとらわれることなく、何を見たいか、どのような意見を伺いたいかなど、毎年度の課題を踏まえながら、引き続き実施内容を検討していただきたい。 	<p>視察や教育懇談会については、<u>委員の意向調査や教育現場の現状・課題等を踏まえて視察場所や内容、懇談会のテーマや対象者等を</u>検討している。視察の際は併せて<u>授業者等や施設の担当者</u>と意見交換会を実施することで、より実態や意向、課題を捉えられるよう工夫している。</p> <p>今後は、視察や懇談会の実施後に自由討議の時間を活用して、<u>委員同士の振り返りの時間を設ける</u>など、委員同士の共通理解を図ることで、教育委員会会議における<u>議論のより一層の活性化に努めていく。</u></p>

	評価・意見	対応状況
3	<p>【教育委員会における意見の反映】</p> <p>教育委員会の意見をどのように教育行政に反映させたかについての記載があると、教育委員会の意義が高まると思われるのでご検討いただきたい。</p>	<p>各施策事業等の推進にあたっては、<u>教育委員会会議や委員 de サロンを通じて教育委員からいただいた意見を踏まえ、担当課で適宜見直しや進行管理を行っており、引き続き教育委員会の意見を適切に反映させながら教育行政の推進に努めていくとともに、意見の反映について点検・評価報告書における第6章の総合評価への記載を検討していく。</u></p>

3 教育委員会施策について

No.	評価・意見	対応状況
1	<p>【自己評価の記載の充実】</p> <p>施策の展開過程で出てきた課題や、その解決に向けた努力や成果について意識した自己評価の記載をしていただきたい。また、個々の施策の自己評価だけでなく、教育施策総体に関する自己評価の記載も充実させてほしい。</p>	<p>自己評価については、当初に立てた指標の達成度を示すのに加え、<u>今後の施策の取組方針において、新たな課題や努力、成果などについて記載するよう努めていく。</u>また、教育施策総体については、<u>総合評価における記載内容の充実に努めていく。</u></p>
2	<p>【教育環境の整備の継続】</p> <p>コロナ禍の状況の中、様々な家庭環境があるが、全ての子どもたちが公平に学べるような教育環境の整備に継続して努めていただきたい。</p>	<p>児童生徒1人1台端末の活用における通信環境が整わない家庭へのモバイルルータの貸与や、新型コロナウイルス感染症の影響により家計が急変した世帯の方への<u>奨学金の貸付、教育相談の随時対応</u>など、教育の公平性に取り組んでおり、引き続き、<u>様々な家庭環境について配慮しながら教育環境の整備に努めていく。</u></p>
3	<p>【「うつのみや学校マネジメントシステム」の有効的な活用】</p> <p>「うつのみや学校マネジメントシステム」について、適正な評価を行えるような項目への見直しなども検討していただき、今後も有効な評価がなされ、評価の結果が適切に学校経営に反映されることを期待したい。</p>	<p>「うつのみや学校マネジメントシステム」については、令和4年度における<u>学校教育推進計画の見直しにあわせて項目の見直しを検討していく。</u>また、引き続きPDCAサイクルの円滑化による学校経営の充実、地域とともにある学校づくりの展開、信頼される学校教育の推進を目指して、<u>評価結果の有効的な活用に努めていく。</u></p>
4	<p>【英語コミュニケーション能力や郷土愛の育成】</p> <p>英語コミュニケーション能力の向上を図るとともに、宇都宮学の着実な推進により、郷土への理解や愛情と誇りの醸成を図ることで、地域の将来を担う子どもたちが育まれることを期待している。</p>	<p>引き続き<u>ALTの活用や、イングリッシュキャンプ等のイベントの実施、研修による教員の指導力向上</u>などにより、英語コミュニケーション能力の向上に努めていく。</p> <p>宇都宮学においては、<u>副読本の内容を着実に理解させる学習のほか、現地調査や体験などによる探究的な学習の着実な実施を図っていく。</u></p> <p>また、郷土愛の醸成については、道徳科における「<u>地域道徳科教材</u>」の活用も引き続き推進していく。</p>

4 広報活動について

No.	評価・意見	対応状況
1	<p>【教育委員会だよりにおける表記の工夫】</p> <p>教育委員会だよりは、読み手を意識して、わかりやすい広報となるよう工夫されたい。</p>	<p>読み手の理解促進を図り、ひいては教育委員会の取組への参画意欲の醸成につなげていけるよう、教育委員会だよりの各項目において、事業の目的や意図を要約した見出しを新たに付けることとした。</p>
2	<p>【開かれた教育委員会を目指した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者や市民の意見・要望を広く聴くための場を設定するなど、開かれた教育委員会を目指した取組を期待する。 ・ 小中学生の保護者だけではなく、子育てが終わった方からも宇都宮市の教育に関心を持っていただけるように、SNSを活用し広く情報を発信するなど、効果的な広報活動を期待している。 	<p>教育行政に係る意見等については、引き続き<u>随時メールや電話等</u>にて受け付け対応していくほか、必要に応じ<u>地域の实情に応じた地域説明会等を開催</u>し、市民の意見を聴取し開かれた教育委員会を目指していく。</p> <p>また、広報紙やホームページ、教育委員会だより等を通じ<u>積極的な情報発信に努めている</u>ほか、今後は<u>1人1台端末やSNS等の活用を進め</u>、時代に沿った形で幅広い世代に本市の教育について発信できるよう努めていく。</p>
3	<p>【広報活動における広報力の向上】</p> <p>教育委員会の取組を「理解してもらう」ための広報活動の推進に向け、「知ってもらう運動推進会議」の継続や広報事務研修の実施により広報力の向上に努めていただきたい。</p>	<p>毎月1回「知ってもらう運動推進会議」を開催し、活動指標である「<u>パブリシティ活動</u>」の進捗確認やパブリシティ活動の好事例等の情報共有を行うなど、<u>局内の広報活動体制の強化を図っている</u>ほか、情報提供の方法やメディア対応の留意点等をまとめた「<u>教育委員会広報資料集</u>」を新たに作成し、<u>資料提供による研修を実施</u>するなど、職員の広報力の向上に努めてきた。</p> <p>引き続き、「<u>知ってもらう運動推進会議</u>」や「<u>広報事務研修</u>」を実施するほか、<u>ターゲット層に応じた適切な広報媒体を検討</u>するなど、「第2次宇都宮市教育委員会広報プラン」に基づき、組織的・戦略的・効果的な広報活動の展開に努めていく。</p>

～第3章 教育委員会の活動～

1 教育委員会の活動状況

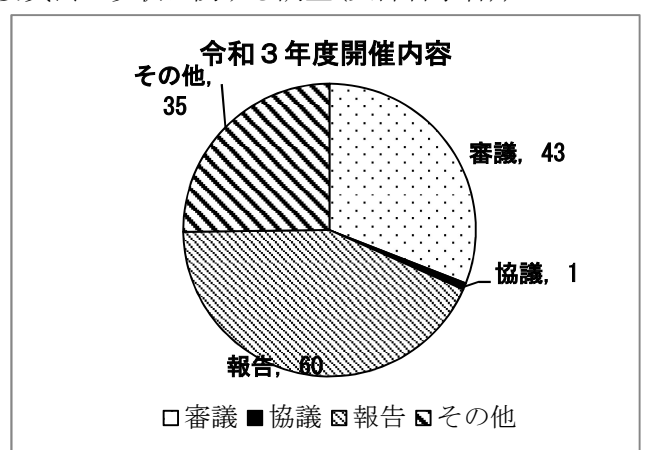
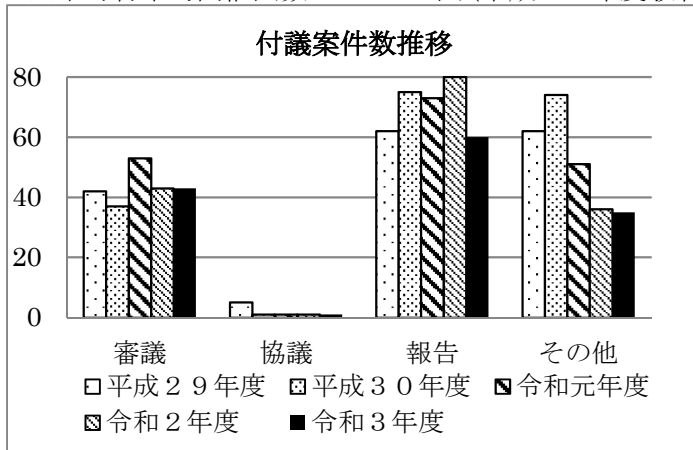
【参考】教育委員会の活動の種類

- 教育委員会会議…教育長及び教育委員が教育行政にかかる基本方針の決定などを行うための会議（法第14条）
- 委員協議会…会議に付すべき議案の事前審議，その他研究協議を行うために開催（宇都宮市教育委員会会議規則第5条）
- その他の活動
 - ・教育施設視察…小中学校や社会教育施設，文化・スポーツ施設などの視察
 - ・教育懇談会…小中学校教職員や社会教育団体，文化・スポーツ団体などの教育関係者との意見交換
 - ・市議会との意見交換…議長，副議長，文教消防水道常任委員会の委員長，副委員長との意見交換
 - ・総合教育会議…首長との連携強化を目的に，教育政策などにかかる協議・調整を行うために首長が設置・運営を行う会議（法第1条の4）
 - ・委員研修…教育の諸課題等にかかる状況把握や専門性を高めるために行うもの
 - ・委員deサロン…各課業務の現状・課題等についての共通理解を深めるために事務局職員と意見交換を行うもの
 - ・自主活動…教育委員が個別に行った教育委員としての活動

(1) 教育委員会会議の開催状況

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年比
開催回数	定例会	12	12	12	12	12	0
	臨時会	3	9	10	8	7	▲1
	計	15	21	22	20	19	▲1
付議案件数	審議	42	37	53	43	43	0
	協議	5	1	1	1	1	0
	報告	62	75	73	80	60	▲20
	その他	62	61	51	36	35	▲1
	計	171	174	178	160	139	▲21

※市町村平均開催回数 15.1回(平成30年度教育委員会の現状に関する調査(文部科学省))

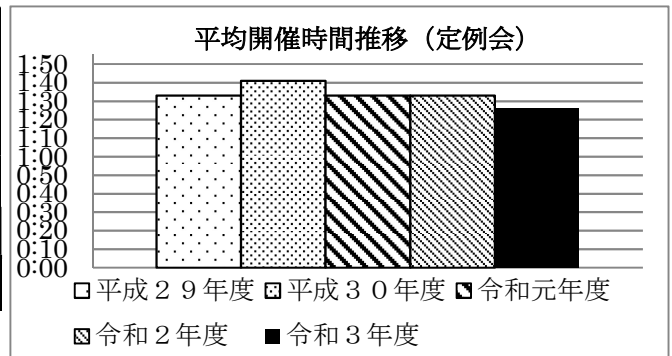


◆令和3年度教育委員会会議の審議件数一覧

事 項	件数	主な内容
基本方針及び計画策定等	4	予算編成・組織定員方針，計画の策定など
規則等の制定・改廃	7	諸規則の改正
議会の議決を経るべき議案の意見聴取	6	予算，条例改正などの議会議決案件
人事案件	17	職員人事，教職員人事内申，委嘱など
附属機関等への諮問	1	教育支援委員会への諮問
教科書採択関係	2	小中学校使用教科用図書の採択
その他	6	教育委員会評価，指定管理候補者の選定など
合 計	43	

◆令和3年度教育委員会会議（定例会）の平均開催時間

年度	平均開催時間	回数
平成29年度	1時間33分	12
平成30年度	1時間41分	12
令和元年度	1時間33分	12
令和2年度	1時間33分	12
令和3年度	1時間26分	12



◆令和3年度教育委員会会議の状況について

- ・ 審議事項，協議事項については，前年度と同じ案件数であった。
- ・ 報告事項については，令和2年度に実施した組織改編や会計年度任用職員制度の導入などに係る案件報告が令和3年度はなかったこと，また令和3年度については新型コロナウイルス感染症への対応が一定整理され，新型コロナウイルス感染症に係る長期の学校臨時休業やイベントの急な延期・中止等の報告がなかったことなどに伴い，案件数が前年度を下回った。
- ・ 会議の平均開催時間については，報告事項の件数が前年度より減少したことなどにより，前年度と比較しやや減少した。

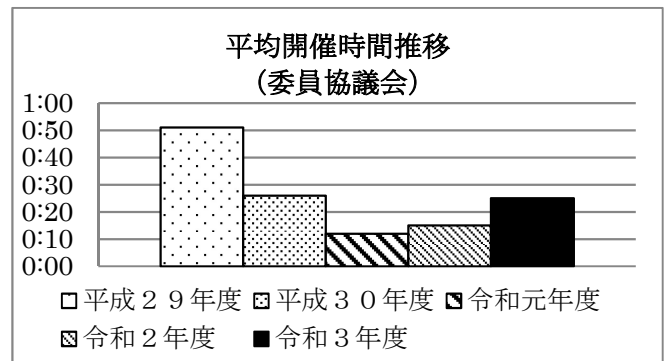
(2) 委員協議会の実施状況

◆委員協議会における議題

- ・ 教育委員会基本方針について

◆委員協議会の平均開催時間

年 度	委員協議会	
	平均開催時間	回数
平成29年度	51分	12
平成30年度	26分	4
令和元年度	12分	1
令和2年度	15分	1
令和3年度	25分	1



◆令和3年度委員協議会の状況について

- ・ 教育委員会会議における議案の事前審議を行うため委員協議会を1回開催した。
- ・ 開催回数は前年度と同じであり、開催時間についてはやや増加した。

(3) 教育施設視察や教育懇談会などの活動状況

教育施設視察や教育懇談会などの活動については、可能な限り教育委員会会議と同日開催とするなど、効率的・効果的な活動に努めることで、委員の負担軽減を図った。

ア 教育施設視察

実施日	視察先	目的	教育委員の感想・意見
R3. 10. 22	カンセキスタジアムとちぎ	県総合スポーツゾーンの中核施設であり、「いちご一会とちぎ国体」のメイン会場となるカンセキスタジアムとちぎの視察を通し、本市における競技施設整備などスポーツ行政の更なる充実を図るための参考とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大谷石や益子焼、鹿沼組子、真岡木綿など、様々な栃木らしさを表現する県産材・県産品が建物の随所に活用されているカンセキスタジアムとちぎは、「する」スポーツ、「見る」スポーツ、「支える」スポーツ、各々に対応した施設になっていた。 ・ 観客席から歓声が揚がっている中においても、監督の声が選手に届きやすいフィールド、車椅子の方でも安心して観戦できる観客席や多目的トイレの設置など、建物に様々な工夫がなされており、誰もがスポーツに親しみやすい環境の充実が図られていると感じた。
R3. 11. 19	I C Tを活用した授業 (宇都宮市立旭中学校)	授業でデジタルコンテンツを活用する様子を視察するとともに、指導にあたる教職員との意見交換を実施することで、I C Tを活用した教育の充実に向けた参考とする。 また、中学校の体育館に整備された空調機器についても併せて視察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生の理科の授業では、端末を用いて生徒が実験を行ったり、先生が瞬時に生徒一人ひとりの意見を集約したりしていた。 ・ 生徒たちも慣れた手つきで端末への入力を行うなど、文具の一つとして端末が活用されており、個別最適な学びや協働的な学びの実現に向けてI C Tの活用が進んでいると感じた。 ・ 体育館の空調機器については、生徒たちが安心して授業や部活動が行えるよう、体育館アリーナに6台のエアコンが備え付けられており、夏場の気温が高い日でも、安心して教育活動が行えるようになっていた。
R4. 1. 26 【中止】	「道徳科地域教材」を活用した授業	「特別の教科 道徳」の授業において、「道徳科地域教材」を活用した学習の様子を視察するとともに、指導にあたる教職員との意見交換を実施することで、郷土への愛着形成に繋がる教育の充実に向けた参考とする。	※ <u>新型コロナウイルス感染症にかかる変異株の蔓延に対する学校側の意向等を踏まえ、中止とした。</u>



カンセキスタジアムとちぎ（フィールド）



I C Tを活用した授業（理科室）

イ 教育懇談会

実施日	内容・参加者	テーマ・目的	教育委員の感想・意見
R3. 10. 12	<p>◆内容 教職員とのふれあいティータイムトーク</p> <p>◆参加者 教務主任， 通常学級担任， 特別支援学級担任 小学校及び 中学校から 各3名</p>	<p>◆テーマ コロナ禍における教職員の働き方改革の現状や課題について</p> <p>◆目的 学校における働き方改革について，新型コロナウイルス感染症の影響等も含め，現状や課題を把握する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度から導入された1人1台端末の活用による課題提出等に係る業務の削減や，スクールサポートスタッフ等との連携による事務作業の削減など，各学校で工夫しながら，学級経営に効率的に時間を充てるよう取り組まれていた。 現場の声として，現在徹底した感染対策を講じながら学校行事等を工夫して実施している中，今後コロナが収束した場合においても，学校行事のあり方等について改めて見直す必要があるのではないか，などのご意見もいただいた。



教職員とのふれあいティータイムトーク

ウ 委員 de サロン（実務担当者との意見交換）

実施日	事務局出席者	内容
R3. 5. 26	教育企画課	令和3年度教育委員会教育施設視察について
		令和3年度教育委員会と教職員とのふれあいティータイムトークの開催について
		令和3年度教育委員会点検・評価（教育委員会活動）について
R3. 6. 25	局内各課・所	教育委員会評価（施策全般にかかる評価）について
R3. 7. 21	教育企画課	令和3年度第1回総合教育会議の議題案について
R3. 9. 21	生涯学習課	令和3年宇都宮市成人式について
R3. 11. 19	教育企画課	「教育委員会だより」の発行について
	学校教育課	令和3年度小・中学校卒業式あいさつについて
R4. 3. 18	教育企画課	令和4年度教育委員会の活動について
教育委員の感想・意見		
<ul style="list-style-type: none"> 委員 de サロン等での細かな説明や事務局との意見交換を通して多岐に渡る情報を得るとともに、委員間での共通理解の促進を図ることができた。今後とも実務担当者との意見交換等を通して委員としての資質向上に繋がる知識を深めていけるよう努めていきたい。 		



委員 de サロン

エ 教育委員会点検・評価報告書の提出

実施日	内容	備考
R3. 8. 27	令和3年度宇都宮市教育委員会点検・評価報告書の提出	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会点検・評価報告書の内容をもとに、教育委員会活動などについて報告を行った。 意見交換会は、新型コロナウイルス感染症にかかる「緊急事態宣言」発令期間であったため中止した。



教育委員会点検・評価報告書の提出

オ 総合教育会議

実施日	内容	教育委員の感想・意見
R3. 9. 27	子どもと大人の情報モラルの向上とスマートフォン等の適正利用について	<ul style="list-style-type: none"> 本市児童生徒のスマートフォン等の所持状況や本市における適正利用に関する取組、情報モラル教育等について、市長へ説明を行い、共通理解を図った。 スマートフォン等の危険性や適切な使い方などについて、児童生徒の発達段階に応じた理解促進や保護者への周知啓発ができるよう、相談事業や出前講座の実施、共同宣言の周知啓発、教職員の研修等に取り組むとともに、情報モラルの意識向上に向けて市長部局と教育委員会が連携し取り組んでいくことを確認した。
実施日	内容	教育委員の感想・意見
R4. 3. 25	令和4年度教育委員会基本方針（素案）について	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度教育委員会基本方針（素案）について、市長へ説明を行い、共通理解を図った。 特に力を入れて取り組みたいものとして、地域とともにある学校づくりの推進と学校運営体制の強化、成長の基盤となる知・徳・体と未来を生き抜く力の育成などについて、意見交換を行った。 市長部局と教育委員会が密接に連携を図りながら、教育行政の推進に努めていくことを確認した。



第1回総合教育会議



第2回総合教育会議

◆教育委員が出席した総会・研修会など

- ・ R3. 5. 18 河内宇都宮地区市町教育委員会連合会定例会・研修会
- ・ R3. 5. 24 栃木県市町村教育委員会連合会総会【書面開催】
- ・ R3. 5. 28 関東信越静市町村教育委員会連合会総会及び研修会【書面開催】
- ・ R3. 11. 10 栃木県市町村教育委員会連合会総会・研修会※情報交換会は中止
- ・ R4. 2. 10 市町村教育委員研究協議会【オンライン会議】

※ 例年10月に実施されている河内宇都宮地区市町教育委員会連合会定例会・研修会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い中止となった。

カ 教育委員による自主活動など

教育委員会会議や視察、意見交換会などのほかに、教育委員が個別に行った活動については以下のとおりである。

◆学校関係の活動

- ・市内学校への訪問（校長・副校長等との面談，保護者・PTA役員等との面談等）
- ・学校行事の参観
- ・魅力ある学校づくり地域協議会や宮っ子ステーション等の会議出席
- ・放課後子ども教室への参加

◆地域の活動

- ・地域学校支援会議，子どもの家事業説明会等への参加
- ・青少年育成活動や地域リーダースクラブ活動，スポーツ少年団活動，宮のにぎわい山車復活プロジェクトなどへの参加
- ・地域の民生委員，子どもの家指導員との意見交換

2 教育委員会活動にかかる教育委員の所感

【自由討議について】

- ・ 自由討議のテーマに対しての事前説明があることによって，知識を深めることができ良かったと思う。
- ・ 事務局からの情報提供と意見交換を分けたことで十分に自由討議する時間を得られたと思う。ただ，1ヶ月経過すると，情報提供された内容について記憶が薄れてしまう部分もあった。
- ・ 自由討議については，教育委員が興味のあることを深掘りできるので，貴重な機会であることから今後も継続して欲しい。

【教育施設視察・教育懇談会について】

- ・ コロナ渦の中，視察・懇談会は目的をもって開催されていて有意義であり，また懇談会後は自由討議において振り返りの時間があったことで，委員同士の見解等の共有を図ることができた。
- ・ 視察では，最先端や最新の情報に触れられ，懇談会は現場の教員の生の声を伺うことができる貴重な機会だった。

【委員 de サロンについて】

- ・ 委員 de サロンについては，毎回丁寧な説明で，教育委員会活動の理解の上でも大変助かっている。

【総合教育会議について】

- ・ 第1回総合教育会議では，来年度もタイムリーかつ意見が多彩になるテーマを考えていくのが良いと思う。
- ・ 第2回総合教育会議では，次年度の教育委員会基本方針を掘り下げて考えることができたので，教育委員としての責務を果たすために非常に重要な会議であることを実感した。

～第4章 教育委員会施策～

本市で実施している行政評価を活用しながら、第6次総合計画基本計画の体系に掲げた4つの基本施策を構成する16の施策ごとの評価を実施する。

【基本施策・施策】

基本施策1 確かな自信と志を育む学校教育を推進する

- 施策（1）成長の基盤となる知・徳・体の育成
- 施策（2）未来を生き抜く力の育成
- 施策（3）地域とともにある学校づくりの推進
- 施策（4）教育環境の充実
- 施策（5）多様な児童生徒に応じた指導・支援の推進
- 施策（6）教職員の資質・能力と学校の組織力の向上
- 施策（7）幼児教育の推進
- 施策（8）高校，高等教育の充実・支援

基本施策2 生涯にわたる学習活動を促進する

- 施策（1）自己を磨き社会を支える学習の推進
- 施策（2）学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実
- 施策（3）学んだ成果を生かした活動の推進

基本施策3 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する

- 施策（1）ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進
- 施策（2）スポーツ活動環境の充実
- 施策（3）スポーツを支える人材の育成，団体の活性化

基本施策4 暮らしに息づく文化の創造・活用を推進する

- 施策（1）文化活動の充実
- 施策（2）文化の創造・継承，保存・活用

<参考：施策指標の評価及び総合評価>

区分	A（25点）	B（20点）	C（15点）
①施策指標の達成度 ^{※1} （産出指標・成果指標）	100%以上	70～100%未満	70%未満
②市民満足度（意識調査 結果対基準値（H29））	向上（+5pt以上）	維持（±5pt未満）	低下（-5pt以下）
③主要な構成事業の 進捗状況	計画以上 （構成事業2事業 以上が計画以上）	計画通り （主に構成事業4事業 以上が計画どおり）	計画より遅れ （構成事業2事業 以上が計画より遅れ）
総合評価 ^{※2}	順調 （90点以上）	概ね順調 （75～90点未満）	やや遅れ （75点未満）
	A評価が2つ以上 （C評価がある場合を除く）	主にB評価が3つ以上	C評価が2つ以上 （A評価が2つある場合を除く）

※1 コロナ禍の影響により、施策指標（産出指標，成果指標）の実績値が著しく低下している場合、「評価対象外」とし、「-」で表記している。（対象の施策指標例：講座・研修等の受講者数など）

※2 施策指標（産出指標，成果指標）を評価対象外とした場合は、「評価対象外」を除いた他の指標をもとに倍率補正を行い，100点換算し評価を行っている。

基本施策1 確かな自信と志を育む学校教育を推進する

施策(1) 成長の基盤となる知・徳・体の育成

施策目標		知・徳・体のバランスのとれた力や、生涯にわたって学び続ける意欲・態度を児童生徒に身に付けるための教育を推進しています。																														
施策指標	産出指標	全小中学校からの教育長奨励賞の申請人数 (延べ人数)			令和3年度		評価																									
					目標値	14,568人																										
					実績値	13,874人																										
		基準値(H28)	2,018人	目標値(R4)	17,568人	達成度		95.2%																								
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定																													
成果指標	「自分やみんなのためになることは、つらいことでもがまんしてやろうとしている」と回答した中学3年生の割合(学習と生活についてのアンケート)				目標値	88.2%	B																									
					実績値	86.1%																										
		基準値(H28)	85.7%	目標値(R4)	88.7%	達成度		97.6%																								
		目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定																												
市民満足度 (基準値(H29)比)	31.9% (-7.1pt)	<p>市民満足度の推移</p> <table border="1"> <caption>市民満足度の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調査結果 (%)</th> <th>基準値+5pt (%)</th> <th>基準値-5pt (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>39.0</td> <td>44.0</td> <td>34.0</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>34.8</td> <td>44.0</td> <td>34.0</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>36.4</td> <td>44.0</td> <td>34.0</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>34.0</td> <td>44.0</td> <td>34.0</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>31.9</td> <td>44.0</td> <td>34.0</td> </tr> </tbody> </table>			年度	調査結果 (%)	基準値+5pt (%)	基準値-5pt (%)	H29	39.0	44.0	34.0	H30	34.8	44.0	34.0	R1	36.4	44.0	34.0	R2	34.0	44.0	34.0	R3	31.9	44.0	34.0	<p>主要な構成事業の進捗状況</p> <p>計画以上 0 事業</p> <p>計画通り 5 事業</p> <p>計画より遅れ 0 事業</p> <p>感染症の影響による変更 0 事業</p>		C	B
年度	調査結果 (%)	基準値+5pt (%)	基準値-5pt (%)																													
H29	39.0	44.0	34.0																													
H30	34.8	44.0	34.0																													
R1	36.4	44.0	34.0																													
R2	34.0	44.0	34.0																													
R3	31.9	44.0	34.0																													
施策の評価・分析	<ul style="list-style-type: none"> 「宮っ子心の教育」を推進し、学校・家庭・地域が連携して、児童生徒の良い取組を認め励ます教育に努めてきたことにより、「宮っ子心の教育表彰」における教育長奨励賞の申請人数は、<u>単年度目標値は下回ったものの、高い水準を維持している。</u> 各学校が「認め励ます教育」を推進するとともに、<u>たくましさの涵養に努めたことにより、「つらいことでもがまんしてやろうとしている」と回答した生徒の割合は、高い水準を維持している。</u> 市民満足度については、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校行事や部活動、校外活動等で様々な制約が生じたことなどから満足度が低下した一方、<u>学校へ関わる機会の減少により「わからない」の回答が増加(42.6%)したと考えられる。</u> 																															
総合評価	概ね順調																															

今後の施策の 取組方針	課題	<p>【知・徳・体のバランスのとれた力や生涯にわたって学び続ける意欲・態度等の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が変化の激しいこれからの社会を力強く生き抜くことができるよう、知・徳・体のバランスのとれた力や生涯にわたって学び続ける意欲・態度等を身に付けさせるためには、<u>「主体的・対話的で深い学び」</u>に向けた授業改善や、<u>人間としての在り方や生き方の礎となる道徳教育の一層の充実</u>を図る必要がある。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校での活動に制約がある中でも、<u>ICTなどを効果的に活用して学校ならではの教育活動を着実に推進し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる必要がある。</u> <p>【小中一貫教育・地域学校園制度^(※1)の着実な推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校や地域学校園が裁量を生かしながら、小中一貫教育カリキュラムの充実や、地域の教育力を有効に活用した教育活動を着実に推進することができるよう、<u>各地域学校園における効果的な取組について情報共有していく必要がある。</u>また、本事業のこれまでの成果等を踏まえ、<u>「第2次宇都宮市学校教育推進計画」との関係整理や義務教育9年間の指導の系統性と学びのつながりの強化</u>など、必要な見直しを行う必要がある。 <p>【自己の体力・健康を主体的に管理できる能力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が、健康で安全な生活を送るために必要な資質や能力を高めていけるよう、「体力の向上」、「学校保健」、「食育」、「学校安全」の4つの分野を一体的に捉えた<u>「宇都宮市学校健康教育推進計画」</u>を推進することにより、<u>自己の体力・健康を主体的に管理できる能力を育成する必要がある。</u>
	取組の 方向性	<p>【知・徳・体のバランスのとれた力や生涯にわたって学び続ける意欲・態度等の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市が「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて推進している<u>「宇都宮モデル^(※2)」</u>や児童生徒1人1台端末の効果的な活用などにより、<u>授業改善や学習機会の確保に努める。</u>また、自己肯定感やたくましさ、望ましい勤労観等を育むため、「<u>宮っ子心の教育</u>」における本市独自の表彰制度の活用や、「<u>宮・未来キャリア教育</u>」における<u>宮っ子チャレンジウィーク^(※3)の着実な実施</u>、<u>キャリアパスポート^(※4)の活用</u>などを通して、取組の一層の充実に努める。 <p>【小中一貫教育・地域学校園制度の着実な推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各地域学校園において、<u>児童生徒の学力保障や学校生活適応支援等に向け取組を着実に進めるとともに、担当教員対象の研修会等において広く周知することにより、全市的な水準の向上を図る。</u>また、これまでの本事業の成果等の検証結果を踏まえ、「<u>第2次宇都宮市学校教育推進計画</u>」との関係整理や義務教育9年間の指導の系統性と学びのつながりの強化など、必要な見直しを行っていく。 <p>【自己の体力・健康を主体的に管理できる能力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康で安全に生活するための知識や技能を着実に身に付けられるよう、「<u>体力の向上</u>」、「<u>学校保健</u>」、「<u>食育</u>」、「<u>学校安全</u>」の各分野の着実な推進及び4つの分野の<u>一体的な推進</u>を図る。また、身に付けた知識や技能を日常生活で活かすことができるよう、<u>ICTの活用などにより家庭・地域等と更なる連携を図る。</u>

(※1) **小中一貫教育・地域学校園制度**

義務教育9年間を通じた系統的な指導と地域の教育資源を活用した特色ある教育活動による、児童生徒の学力保障と学校生活適応を目指す学校教育の充実を図る制度。

(※2) **宇都宮モデル**

文部科学省が示した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、市教育委員会が提案している授業モデルの一つ。「はつきり！じゅく！すつきり！」の授業展開を提案している。

(※3) **宮っ子チャレンジウィーク**

全市立中学2年生が、連続する5日間（月曜から金曜日まで）、受け入れ先の企業・店舗・農家・公共機関等において担当者の指導を受けながら行う職場体験等の活動。

(※4) **キャリアパスポート**

児童生徒がキャリアに係る学習や体験を通して身に付いたことや考えたことなどを記録し蓄積する教材。

施策（2）未来を生き抜く力の育成

施策目標		これからのより良い社会の創造に必要な資質能力を児童生徒に身に付けるための教育を推進しています。						
施策指標	産出指標	授業の半分以上を英語で行っている中学校教員の割合			令和3年度		評価	
					目標値	82.6%		
					実績値	76.1%		
		基準値 (H28)	68.0%	目標値 (R4)	85.46%	達成度		92.1%
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
	成果指標	英検3級程度以上の英語力を有する中学3年生の割合				目標値	56.0%	B
			実績値	41.3%				
基準値 (H28)			40.0%	目標値 (R4)	60.0%	達成度	73.8%	
目標値の設定方法			これまでの実績を参考に設定					
市民満足度 (基準値 (H29) 比)	21.8% (-4.0pt)	市民満足度の推移		B	主要な構成事業の進捗状況		B	
					計画以上0事業 計画通り4事業 計画より遅れ0事業 感染症の影響による変更0事業			
施策の評価・分析		<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校英語教員全員を対象とし、<u>外国語指導助手（ALT）を活用した英語のみを使用する研修や、学校におけるALTを活用した職員研修を継続的に実施することにより、授業の半分以上を英語で行っている中学校教員の割合は、単年度目標値は下回ったものの、高い水準を維持している。</u> ・ <u>新型コロナウイルス感染症の影響により英語によるコミュニケーション活動が制限されたことなどから、英検3級程度以上の英語力を有する中学3年生の割合は目標値を下回った。</u> ・ 市民満足度については、<u>新型コロナウイルス感染症の影響により、授業での英語によるコミュニケーション活動など、学校における教育活動が様々な制約を受けたことから、満足度の低下や「わからない」とする回答が増加(46.1%)したと考えられる。</u> 						
総合評価		概ね順調						

今後の施策の 取組方針	課題	<p>【英語によるコミュニケーション能力の向上と郷土への愛情と誇りの醸成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからのグローバル社会で求められる、英語によるコミュニケーション能力の向上や、郷土への愛情と誇りの醸成を図るためには、<u>児童生徒が英語に触れることができる機会の充実や、「宇都宮学^(※5)」の着実な推進が必要である。</u> <p>【GIGAスクール構想の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国が推進するGIGAスクール構想に対応し、<u>個別最適な学びや協働的な学びの実現に向けた1人1台端末の効果的な活用をより一層図っていく必要がある。</u> <p>【携帯電話等の使用に係る問題の未然防止・早期発見・早期対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生のスマホ等の所持率は年々増加傾向にあることから、児童生徒をスマホ等によるトラブルや犯罪被害から守るため、インターネット上での<u>不適切な書き込みの検索・削除などの対策を強化するとともに、情報モラルの育成を図る必要がある。</u>
	取組の 方向性	<p>【英語によるコミュニケーション能力の向上と郷土への愛情と誇りの醸成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市児童生徒の英語によるコミュニケーション能力を確実に育成するため、中学校英語教員全員を対象とし、<u>ALTを活用した英語のみを使用する研修や、学校におけるALTを活用した職員研修を実施することにより、教員の指導力向上に努めるとともに、放課後等に英会話教室等を実施するなど、ALTを活用した授業時間外の取組の充実を図る。</u> <p>また、「宇都宮学」の推進にあたっては、<u>副読本を活用して、宇都宮の自然や交通、伝統文化などを着実に理解させる学習や、現地調査や体験などによる探究的な学習が着実に実施されているところであり、今後とも、教員対象の研修会を開催するとともに、学校訪問による教員への指導助言などを通して、着実な実施に努めていく。</u></p> <p>【GIGAスクール構想の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の充実等により教職員のICTを活用した指導力の向上を図ることで、<u>児童生徒が効果的に1人1台端末を活用して学習できるよう努めていく。</u> <p>【携帯電話等の使用に係る問題の未然防止・早期発見・早期対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒をスマホ等によるトラブルや犯罪被害から守るため、<u>ネットいじめ等パトロール・相談事業により、インターネット上での不適切な書き込みを検索・削除する。また、外部有識者や通信事業者等による講話を全小中学校で実施するとともに、「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言Ver. 2^(※6)」を有効活用し、児童生徒や保護者に対し、携帯電話等の危険性や適切な使い方などの更なる理解促進が図れるよう、周知啓発の強化や、児童生徒による主体的なルール設定の取組などを推進する。</u>

(※5) 宇都宮学

児童生徒が郷土宇都宮の歴史や伝統文化、産業などについて理解し、郷土への愛情と誇りをもてるようにすることを目的として、小学校3年生から中学校3年生まで、社会科や総合的な学習の時間の中で学習するもの。

(※6) スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言Ver. 2

スマートフォンや携帯電話を持たせる場合の基本的なルールを順守し、保護者の責任のもとで安全・安心に使わせることを目的とした関係団体（PTA連合会、小・中学校長会、青少年育成市民会議、教育委員会）による共同宣言（令和3年3月策定）。平成27年2月に策定した当初の共同宣言から、児童生徒の利用の現状を踏まえてルールを見直すとともに、家庭で話し合って主体的にルールを決めることを新たに加えた。

施策（3）地域とともにある学校づくりの推進

施策目標		学校が主体性と独自性のある経営を行うとともに、地域の教育力を生かした学校づくりが推進されています。										
施策指標	産出指標	「魅力ある学校づくり地域協議会」による学校教育支援活動数				令和3年度		評価				
		目標値		921件		実績値			623件			
		基準値 (H28)	909件	目標値 (R4)	924件	達成度	67.6%					
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定									
	成果指標	「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」と回答した保護者・地域住民の割合				目標値	95.0%		B			
基準値 (H28)		94.4%		目標値 (R4)	95.0%		実績値			90.8%		
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定										
市民満足度 (基準値 (H29)比)		26.3% (-8.0pt)		<p>市民満足度の推移</p>		C		主要な構成事業の進捗状況 計画以上0事業 計画通り3事業 計画より遅れ0事業 感染症の影響による変更2事業		B		
施策の評価・分析		<ul style="list-style-type: none"> 「魅力ある学校づくり地域協議会」による学校教育支援活動数については、新型コロナウイルス感染症の影響により、活動を控える状況があったため、評価の対象外とした。 その一方で、「魅力ある学校づくり地域協議会」の全小中学校への設置など、地域とともにある学校づくりを推進してきたことにより、「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」と回答した保護者・地域住民の割合は、コロナ禍においても、高い水準を維持している。 市民満足度については、新型コロナウイルス感染症の影響により、「魅力ある学校づくり地域協議会」の学校教育支援活動が控えられたことなどから満足度が低下する一方、学校へ関わる機会の減少により「わからない」の回答が増加(48.7%)したと考えられる。 										
総合評価		やや遅れ										

	課題	<p>【学校教育活動支援の一層の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「魅力ある学校づくり地域協議会」について、新型コロナウイルス感染症の影響により活動を控える状況があったため、<u>実施方法を工夫するなど学校活動支援回数</u>の拡大に努めていく必要がある。 <p>【学校評価に基づく学校経営改善の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域等から信頼される学校づくりに向け、学校経営計画に基づき実践した教育の成果を組織的・継続的に<u>検証</u>することにより、<u>教育活動の充実と学校運営の改善</u>を図っていく必要がある。 <p>【地域の教育力を生かした教育活動の一層の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の教育力を生かした教育活動をより一層推進するため、<u>各学校の取組を広く周知</u>するなど、支援を行う必要がある。 <p>【小中一貫教育・地域学校園制度の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「小中一貫教育・地域学校園」の取組を推進するとともに、令和3年度に実施した<u>評価検証</u>や今後の方向性の<u>検討結果</u>を踏まえ、<u>見直し</u>を行う必要がある。 <p>【幼保小連携に係る取組の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼保小連携について、園児の情報交換のみの実施から相互授業参観まで実施している学校もあるなど連携内容に違いはあるものの一定の接続が図られている状況であるが、<u>県の幼児教育部門などとも連携を強化しながら、より円滑な接続に向けた取組の強化</u>を図る必要がある。また、「<u>小中一貫教育・地域学校園制度</u>」の見直しの機会を捉え、<u>幼保小連携に係る視点を新たに加えることを検討</u>する必要がある。
今後の施策の取組方針	取組の方向性	<p>【学校教育活動支援の一層の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の人材による学校教育への支援活動の拡大を図るため、<u>教育委員会だより及び広報紙を活用した人材の確保や「街の先生」等の一層の活用推進</u>、ウィズコロナ下における<u>実施方法の工夫</u>などにより、<u>学校教育活動の充実</u>に努める。 <p>【学校評価に基づく学校経営改善の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「<u>うつのみや学校マネジメントシステム</u>」^(※7)を効果的に活用し、<u>学校経営の改善</u>に努める。 <p>【地域の教育力を生かした教育活動の一層の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「魅力ある学校づくり地域協議会」を活用し、希望する全ての中学生を対象とした<u>学習支援（地域未来塾</u>）^(※8)を推進するため、<u>事業の周知・啓発</u>を行うとともに、<u>モデル事業を実施</u>するなど、<u>地域未来塾の導入推進に向けた活動支援</u>に取り組んでいく。 <p>【小中一貫教育・地域学校園制度の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各地域学校園において、<u>児童生徒の学力保障や学校生活適応支援等</u>に向け取組を<u>着実に進めるとともに</u>、担当教員対象の研修会等において<u>好事例を共有</u>することにより、<u>全市的な水準の向上</u>を図る。また、これまでの本事業の成果等の検証結果をまとめた上で、<u>学校等から意見を聴取</u>しながら、<u>必要な見直し</u>を行い周知する。 <p>【幼保小連携に係る取組の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼児教育と小学校教育のより円滑な接続を図るため、教育部門や保育部門、県の幼児教育部門などの関係機関が一堂に会しての<u>情報交換や意見交換を継続的に行いながら</u>、引き続き県の「<u>とちぎの幼保小カリキュラム接続プロジェクト</u>」^(※9)も活用し、職員の相互理解を図るための<u>合同研修会を試行的に実施</u>するとともに「<u>小中一貫教育・地域学校園制度</u>」の見直しにおいて<u>幼保小連携の取組を加えることを検討</u>するなど、各幼稚園・保育所等と小学校における<u>幼保小連携の取組の強化</u>を図る。

(※7) うつのみや学校マネジメントシステム

全校共通の質問項目と各学校が独自に設定した質問項目により構成した「全体アンケート」を、教職員、児童生徒、保護者、地域住民を対象に実施した後、学校関係者による評価を行い、次年度の計画に生かすことで、学校におけるPDCAサイクルを確立し、学校経営の改善・充実を図るもの。

(※8) 地域未来塾

生徒の学習習慣の定着及び家庭学習時間の増加を図るため、家庭の状況にかかわらず、学びたい生徒が学べる仕組みとして、魅力ある学校づくり地域協議会の地域の教育力を生かして中学生を対象に学習支援を行う取組。

(※9) とちぎの幼保小カリキュラム接続プロジェクト

幼児教育と小学校教育のカリキュラム接続を推進するために、よりよい仕組の構築や事業プランの推進について、県が各市町の取組を支援するもの。対象年度は連続2年間で、本市は令和2・3年度に実施し、幼保小連携の方向性や取組の方法について、県や他市町と意見交換を行ってきた。

施策（4）教育環境の充実

施策目標		児童生徒が、充実した学習環境の下、安心して学校生活を送ることができるよう、安全で快適な教育環境が整っています。																			
施策指標	産出指標	学校トイレの洋式化率				令和3年度		評価													
		目標値		55.0%		A															
		実績値		64.5%																	
		基準値 (H28)	38.2%	目標値 (R4)	57.0%		達成度		117.3%												
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定																		
	成果指標	「インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている。」と回答した中学3年生の割合				目標値	72.0%	A													
実績値		78.9%																			
基準値 (H28)		60.3%	目標値 (R4)	75.0%	達成度	109.6%															
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定																			
市民満足度 (基準値 (H29) 比)		30.3% (-0.4pt)	<p>市民満足度の推移</p> <p>(%) ● 調査結果 - - 基準値+5pt 基準値-5pt</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調査結果 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>30.7</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>25.4</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>28.8</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>28.2</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>30.3</td> </tr> </tbody> </table>			年度	調査結果 (%)	H29	30.7	H30	25.4	R1	28.8	R2	28.2	R3	30.3	B	主要な構成事業の進捗状況		B
年度	調査結果 (%)																				
H29	30.7																				
H30	25.4																				
R1	28.8																				
R2	28.2																				
R3	30.3																				
計画以上1事業																					
計画通り4事業																					
計画より遅れ0事業																					
感染症の影響による変更0事業																					
施策の評価・分析		<ul style="list-style-type: none"> ・国の補助を最大限活用しながらトイレ改修工事を実施したことなどにより、目標値を大幅に上回る洋式化率を達成しており、快適な教育環境の確保が図られている。 ・GIGAスクール構想の推進に伴い、児童生徒一人一台端末を全児童生徒向けに導入したことにより、インターネットやパソコンを利用して、主体的に学習に関する情報を収集している児童生徒の割合が増加したと考えられる。 ・市民満足度については、校舎及び体育館のトイレ環境の改善や中学校体育館への空調設備の新規導入、1人1台端末を活用した授業の実践等、教育環境の充実に向けたさまざまな事業に積極的に取り組んだことにより、「満足」、「やや満足」の回答が増加したと考えられる。 																			
総合評価		順調																			

今後の施策の 取組方針	課題	<p>【学校施設の老朽化等への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進行している学校施設については、安全面への配慮やより良い教育環境の確保、多様化するニーズへの対応などが求められており、限られた財源の中で計画的・効率的な整備を行っていく必要がある。 <p>【GIGAスクール構想の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校全児童生徒分の1人1台端末の整備が完了したところであるが、引き続き、<u>校内通信ネットワークの追加整備の検討</u>とともに、災害等の発生時においても柔軟に対応できるよう、<u>オンライン家庭学習の推進</u>など、様々な工夫が求められている。
	取組の 方向性	<p>【学校施設の老朽化等への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校施設の整備については、令和元年度に策定した「学校施設長寿命化計画」に基づき、<u>トータルコストの縮減や事業費の平準化</u>を図りながら、<u>建物の安全性や快適な学習環境の確保</u>に着実に取り組んでいく。 <p>【GIGAスクール構想の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のICT環境については、今回整備した<u>ICT機器の適正な維持管理</u>に努めるとともに、利活用する中で<u>随時、課題解決を図りながら改善</u>に取り組んでいく。

施策（5）多様な児童生徒に応じた指導・支援の推進

施策目標		様々な特性及び状態にある児童生徒の多様な教育的ニーズに応じた指導・支援を推進しています。					
施策指標	産出指標	特別支援教育の推進において、一人一人の教育的ニーズを把握し、実態に応じた指導を実践している教員の割合			令和3年度		評価
					目標値	99.0%	
					実績値	99.5%	
		基準値 (H28)	95.9%	目標値 (R4)	100.0%	達成度	
	目標値の設定方法			これまでの実績を参考に設定			
	成果指標	「私は今の学校が好きです。」と回答した児童生徒の割合（うつのみや学校マネジメントシステム）			目標値	92.8%	B
			実績値	90.1%			
基準値 (H28)		91.8%	目標値 (R4)	93.0%	達成度	97.0%	
目標値の設定方法			これまでの実績を参考に設定				
市民満足度 (基準値 (H29) 比)		21.6% (-1.2pt)	<p>市民満足度の推移</p> <p>(%) ● 調査結果 - - 基準値+5pt 基準値-5pt</p> <p>H29 H30 R1 R2 R3 R4</p>		主要な構成事業の進捗状況 計画以上 0 事業 計画通り 5 事業 計画より遅れ 0 事業 感染症の影響による変更 0 事業		B
施策の評価・分析		<ul style="list-style-type: none"> 市民満足度は、前年度を上回ったものの基準値には達しておらず、「満足」「やや満足」よりも、「やや不満」「不満」の割合の方が若干多い状況にある。また、「わからない」が依然として5割近くを占めているため、<u>どんな取組を行っているのかが、市民にとって見えにくくなっていることが考えられる。そのため、本市の具体的な取組内容を親学講座やHP等を通して、保護者や地域住民への効果的な周知啓発を図っていく。</u> 特別支援教育に係る教職員研修の実施や学校からの要請による会計年度任用職員（教育センター学校生活適用支援アドバイス業務）等の学校訪問相談の実施等により、<u>教員が特別支援教育の視点に立った児童生徒への適切な関わり方を身に付けることができたため、個別の支援が充実したものと考えられる。</u> 					
総合評価		概ね順調					

	課題	<p>【不登校児童生徒への指導の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童生徒はそれぞれに要因・背景があることから、将来的な社会的自立を目指して、個々の児童生徒の実態に応じた情報の提供や教育の機会の確保を行うなど、<u>学校の不登校対応力の向上を図るとともに、教育委員会関係各課が連携する体制の強化を図り、新たな不登校対策に取り組む必要がある。</u> <p>【特別な支援を必要とする児童生徒への指導の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育システムの充実に向け、特別な支援を必要とする児童生徒が、自らの力を最大限に発揮し、自信と意欲を持って学校生活を送れるよう、通常の学級や特別支援学級等の多様な学びの場において、<u>児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教員の指導力や学級経営力の向上を図っていく必要がある。</u> <p>【いじめの未然防止等に係る継続的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止や早期発見・早期対応に引き続き取り組むとともに、<u>初期段階において迅速に組織的に対応していく必要がある。</u> <p>【外国人児童生徒等への指導の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度以降、本市においては日本語指導が必要な児童生徒数はほぼ横ばいだが、使用言語は増え、多国籍化が進んでおり、<u>使用言語の多様化や個に応じた指導の充実を図る必要がある。</u>
今後の施策の取組方針	取組の方向性	<p>【不登校児童生徒への支援の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員研修等において、児童生徒基礎調査や不登校対策の手引書を活用し、<u>不登校の未然防止を意識した学級経営を学校教育課と連携しながら推進するとともに、指導主事等による学校訪問などの機会を捉えて具体的な指導助言を行うことにより、不登校の実態を整理し、適切な目標設定や具体的な計画を立てるなど、不登校児童生徒一人一人の状況に合わせた支援が行えるよう、学校の不登校対応力の向上を図る。</u> ・個に応じた多様で適切な教育機会を確保するため、<u>メンタルサポーターを活用した別室登校支援や、1人1台端末を積極的に活用し、定期的かつ継続的に、家庭と学校で連携した取組を推進する。</u> ・適応支援教室やフリースクール等の民間施設への通所や自宅でICT等を活用した学習活動を行っているなど、学校以外の多様な学びの場で努力を続ける児童生徒については、<u>指導支援を受けている施設や家庭と各学校が連携を図るなど、社会的自立に向けた支援を推進する。</u> <p>【特別な支援を必要とする児童生徒への指導の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導主事や会計年度任用職員（教育センター学校生活適応支援アドバイス業務）等による<u>学校訪問により、対応の困難な児童生徒に対する教員の対応力向上を図るとともに、各校でのOJTによる教職員の指導力と学級経営力を充実させることで、インクルーシブ教育の推進を図る。</u>また、特性のある児童生徒が、苦手な部分を補い改善・克服できるよう<u>1人1台端末を有効活用し、個別最適な学びの実践を図る。</u> <p>【いじめの未然防止等に係る継続的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒主体のいじめ根絶集会の開催や、<u>年4回以上のいじめアンケートの実施、いじめ等問題行動対策連絡会の開催など、いじめの未然防止や早期発見に取り組む。</u>また、いじめが発生した場合には、<u>学校と市教委が連携しながら問題解決を図り、いじめ重大事態の発生を防止する。</u> <p>【外国人児童生徒等への指導の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人児童生徒一人ひとりの状況に応じた指導や外国人保護者への支援を行うため、第3次外国人児童生徒教育推進計画に基づき、国際交流協会との連携を強化しながら、<u>初期日本語指導教室の充実や、日本語指導者の効果的な派遣、日本語指導者研修による指導者の専門性の向上を図るとともに、1人1台端末を活用した翻訳支援について、研修会等を通じて周知していく。</u>

施策（6）教職員の資質・能力と学校の組織力の向上

施策目標		教職員の資質・能力の向上に取り組むとともに、豊富な人材を活用し学校の組織力の向上を推進しています。																			
施策指標	産出指標	研究授業を年間4回以上実施した小中学校の割合				令和3年度		評価													
		目標値		85.2%		B															
		実績値		66.6%																	
		基準値 (H28)	72.85%	目標値 (R4)	87.0%		達成度		78.1%												
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定																		
	成果指標	「教職員は、分かる授業や児童（生徒）にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている」と回答した保護者、児童生徒の割合				目標値	89.5%	A													
実績値		89.6%																			
基準値 (H28)		86.65%	目標値 (R4)	90.0%	達成度	101.0%															
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定																			
市民満足度 (基準値 (H29) 比)		18.4% (-6.2pt)	<p>市民満足度の推移</p> <p>(%) ● 調査結果 - - 基準値+5pt 基準値-5pt</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調査結果 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>24.6</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>22.4</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>22.5</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>19.3</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>18.4</td> </tr> </tbody> </table>			年度	調査結果 (%)	H29	24.6	H30	22.4	R1	22.5	R2	19.3	R3	18.4	C	主要な構成事業の進捗状況		B
年度	調査結果 (%)																				
H29	24.6																				
H30	22.4																				
R1	22.5																				
R2	19.3																				
R3	18.4																				
計画以上0事業																					
計画通り5事業																					
計画より遅れ0事業																					
感染症の影響による変更0事業																					
施策の評価・分析		<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症等の影響により、校内研究授業の実施割合は減少しているが、<u>教職員一人一人がオンラインを含めた研修の参加や自主的な授業研究などを行っている。</u> 「宇都宮市教職員表彰制度」により、<u>教職員の一層の資質能力と勤務意欲の向上、各学校の組織力の向上を図ったことや、個々の教員が指導力向上に努めたことにより、「教職員は学力向上を図っている」と回答した保護者、児童生徒の割合は単年度目標値を上回った。</u> 市民満足度については、新型コロナウイルス感染症の影響により、授業参観やオープンスクールが中止になるなど、<u>学校の教育活動を参観する機会が十分に確保できなかったことなどから、満足度が低下する一方、「わからない」の回答が増加（46.8%）したと考えられる。</u> 																			
総合評価		概ね順調																			

	課題	<p>【教職員の資質・能力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の大量退職・大量採用がしばらく続く見通しであり、<u>若手教員の指導力向上や中堅教員の組織マネジメント力の向上</u>を図ることが喫緊の課題であるとともに、<u>新しい時代に対応した教育を推進するための教職員の資質・能力の向上</u>を図ることが必要である。また、限られた人材の中で、教職員一人一人の特性等を生かした適材適所の配置や、組織として支えていくことが、これまで以上に求められる。 <p>【学校の様々な課題への対応力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だけでは解決が困難な問題や法的トラブル、事件事故等が発生した際、<u>専門的見地からの指導助言や迅速かつ的確な対応</u>を図ることがこれまで以上に求められている。また、<u>ヤングケアラーなど家庭環境に課題のある児童生徒を早期に発見し、関係機関と連携し対応</u>するなど、<u>学校に求められる役割が増加</u>している。 <p>【「チーム学校」体制の構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が児童生徒と向き合う時間を確保しながら、複雑化・多様化した学校教育に関わる課題を解決するためには、<u>教員が担っている業務を見直して負担軽減を図</u>るとともに、<u>専門スタッフが学校教育に参画して教員と専門スタッフが連携する「チーム学校」体制を構築</u>することが必要であり、<u>専門スタッフの適切な配置と管理職のリーダーシップのより一層の強化</u>が必要である。
今後の施策の取組方針	取組の方向性	<p>【教職員の資質・能力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手教員に対して<u>指導力向上の研修を段階的に継続して実施</u>するとともに、授業力向上プロジェクトや学級経営力向上プロジェクトを通して<u>校内におけるOJTを促進</u>する。また、「学校運営推進リーダー養成研修」の内容の充実を図り、引き続き<u>30代、40代の教職員の資質・能力の向上</u>を図るとともに、「宇都宮市教職員表彰」において、<u>学校運営に積極的に取り組む中堅教員を取り上げる</u>ことで、<u>ミドルリーダーの計画的育成と学校運営の活性化</u>を図っていく。 <p>【学校の様々な課題への対応力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法的なトラブルや児童生徒の緊急カウンセリング等に対応するため、<u>弁護士や医師、臨床心理士から構成される「学校支援アドバイザー」を活用し、迅速且つ的確に対応</u>する。また、家庭環境に課題のある児童生徒について、福祉や医療機関と連携を図り支援等に繋げるため、<u>スクールソーシャルワーカーを配置</u>して、<u>今後も適切に対応</u>していく。 <p>【「チーム学校」体制の構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員人事管理システムのICT化により、<u>教職員の情報の一元化及び効率的な管理</u>を行い、<u>学校の事務負担軽減</u>を図るとともに、<u>会計年度任用職員学校図書館司書やスクールカウンセラーなどの配置を継続し、専門性を生かした質の高い教育活動の推進及び教員が児童生徒と向き合う時間の確保</u>に努める。また、令和元年度からの<u>教員数が少ない小規模校への学級支援事務担当の配置</u>を継続することで、<u>担任業務を一部分担させ学級担任の学級経営及び学習指導の充実</u>を図っていくとともに、<u>全小中学校の管理職を対象に、校長経験のある会計年度任用職員学校経営支援担当が学校を訪問し、学校経営等について指導・助言</u>を行うことで<u>管理職のリーダーシップ強化</u>を図っていく。

施策（7）幼児教育の推進

施策目標		幼児が人間形成の基礎となる適切な教育を受けています。					
施策指標	産出指標	幼保小連携推進事業（児童と園児の交流と教職員間の相互理解の活動等）を実施している学校の割合			令和3年度		評価
					目標値	98.0%	
					実績値	50.7%	
		基準値 (H28)	86.7%	目標値 (R4)	100.0%	達成度	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定				
成果指標	幼稚園，保育所等に入園している児童（3～5歳）の割合				目標値	98.0%	B
					実績値	96.6%	
		基準値 (H28)	96.9%	目標値 (R4)	98.0%	達成度	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定				
市民満足度 (基準値 (H29) 比)	26.8% (-3.9pt)	市民満足度の推移		B	主要な構成事業の進捗状況		B
					計画以上0事業		
				計画通り5事業			
				計画より遅れ0事業			
				感染症の影響による変更0事業			
施策の評価・分析		<ul style="list-style-type: none"> 中央教育審議会答申の「『令和の日本型教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～」などにより，幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図ることや幼保小の架け橋期の教育の充実が求められる中，<u>幼稚園・保育所等の園児と小学校児童との交流活動や，教職員間相互の理解を図るための交流を行う「幼保小連携推進事業」に取り組んでいるが，新型コロナウイルス感染症の影響が続いており，依然として多くの小学校で園児と児童の交流活動などについて自粛が続いているが，実施方法や実施時期などの工夫により活動を再開できた学校も前年度より増えている。</u> 一方で，子ども・子育て支援新制度の施行後は，「第2期宇都宮市子ども・子育て支援事業計画」に基づく計画的な教育・保育サービスにより，<u>幼児が人間形成の基礎となる適切な教育を受ける機会の確保が図られている。</u> 市民満足度については，<u>待機児童の解消や多様な保育サービスの充実などによる環境整備，幼児教育・保育の無償化の実施などにより，満足度は増加していると考えられるが，新型コロナウイルス感染症の影響により，幼保小連携推進事業が自粛されていることなどもあり，「わからない」が依然として多い状況である。</u> 					
総合評価		概ね順調					

今後の施策の 取組方針	課題	<p>【幼保小連携に係る取組の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図るため、「<u>幼保小連携推進事業</u>」に取り組んでいるが、<u>園児の情報交換のみ実施している学校から相互授業参観を実施している学校もあるなど、連携の内容に違いが生じていることから、</u>教育部門や保育部門、県の幼児教育部門などの部門間での連携を強化しながら、<u>より円滑な接続に向けた取組の強化</u>を図る必要がある。また、「<u>小中一貫教育・地域学校園</u>」の見直しの機会を捉え、<u>幼保小連携に係る視点を新たに加えることを検討</u>する必要がある。 <p>【必要な教育・保育サービスが利用できる環境の整備と質の高い幼児教育の提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらには、今後の教育・保育の供給体制の確保を図るため、様々な保育ニーズを適切に捉えながら、<u>ニーズに対応した供給体制を確保</u>する必要がある。また、保育所等の職員のより一層の資質向上などによる<u>質の高い幼児教育を提供</u>していく必要がある。
	取組の 方向性	<p>【幼保小連携に係る取組の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育と小学校教育のより円滑な接続を図るため、教育部門や保育部門、県の幼児教育部門などの部門間での情報交換や意見交換を十分に行いながら、引き続き県の「<u>とちぎの幼小カリキュラム接続プロジェクト</u>」も活用し、<u>職員相互理解を図るための合同研修会を試行的に実施</u>するとともに、「<u>小中一貫教育・地域学校園制度</u>」の見直しにおいて<u>幼保小連携の取組を加えることを検討</u>するなど、<u>各幼稚園・保育園等と小学校における幼小連携の取組の強化</u>を図る。 <p>【必要な教育・保育サービスが利用できる環境の整備と質の高い幼児教育の提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「<u>宇都宮市の保育所における質の向上のためのアクションプログラムⅡ</u>」などを踏まえ、<u>職員が必要な知識及び技能を身に着ける</u>など、<u>質の高い幼児教育を提供</u>していく。

施策（8）高校、高等教育の充実・支援

施策目標		市民が自己実現を図るために必要な、高度で専門的な学習機会や場が充実しています。					
施策指標	産出指標	奨学金貸付基準を満たす希望者のうち、貸与を受けられることができた人の割合			令和3年度		評価
					目標値	100%	
					実績値	100%	
		基準値 (H28)	100%	目標値 (R4)	100%	達成度	100%
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定				
	成果指標	大学における市の提供講義に「満足した」と回答した受講者の割合			目標値	90%	A
			実績値	100.0%			
基準値 (H29)		85.4%	目標値 (R4)	90%以上	達成度	111.1%	
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
市民満足度 (基準値 (H29) 比)		22.3% (-3.3pt)			主要な構成事業の進捗状況 計画以上 0 事業 計画通り 3 事業 計画より遅れ 0 事業 感染症の影響による変更 0 事業	B	
施策の評価・分析		<ul style="list-style-type: none"> ・「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」において、これからの高等教育では、SDGs, Society5.0, グローバル化, 少子高齢化といった社会全体の構造の変化など予測困難な時代を迎えるに当たり、多様な価値観や柔軟性を持った人材育成が求められている中、本市においては、「まちづくり」という多様性・柔軟性に富むテーマを高度な知識を持つ市職員が講師となり、実践的な学びの場を提供している。 ・貧困が世代を超えて親から子へと受け継がれてしまう貧困の連鎖などの社会問題に対し、本市においては、経済的な理由で修学を諦めることがないように、貸付基準を満たす希望者全てに確実に奨学金を貸与しており、修学機会の確保が図られている。 ・市民満足度については、前年度から微減となったが、これまでの高度かつ多様な年齢層、多様なニーズに対応する市提供講義の実施のほか、奨学金及び入学一時金における貸付け対象の拡大や、返還免除型育英修学資金における人数・対象の拡大など制度の充実に努めている。 					
総合評価		順調					

	課題	<p>【奨学金制度の効果の検証】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸付を希望する者が使いやすい制度となるよう、<u>利用者の声や居住要件の実績を踏まえ、効果の検証</u>を行う必要がある。 <p>【コロナ禍の影響を踏まえた支援の継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、生活が困窮し学業継続が困難な学生や失業・就労中の者に対し、引き続き、<u>貸付・返還の両面から支援</u>する必要がある。 <p>【大学生等の学習機会の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複雑・多様化する行政課題の解決に資する政策分析や施策立案の充実のため、大学等と連携を図りながら、引き続き、<u>専門的、中期的課題に関する調査研究</u>を行う必要がある。 ・市民大学については、コロナ禍においても市民の知的好奇心を満たし、生きがいや精神的な豊かさなど<u>市民生活に潤いを与える教養講座や地域の文化・歴史講座などの学習機会</u>を引き続き、<u>提供</u>する必要がある。
今後の施策の取組方針	取組の方向性	<p>【奨学金制度の効果の検証】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・申請窓口での対面相談や電話による相談等のあらゆる機会を捉えて、<u>利用者からの聞き取り</u>を行うとともに、<u>国の高等教育の修学支援新制度（授業料等減免・給付型奨学金の支給）や県の高校生等奨学給付金の拡充（住民税非課税世帯への増額）</u>などに係る動向に注視しながら、<u>市民ニーズを踏まえた効果の検証</u>を行う。 ・返還免除型育英修学金については、<u>令和3年度から制度を拡充したため、より効果的な周知</u>を行うほか、令和元年度末に初めて4年生大学の学生が卒業したことから、今後の居住状況を踏まえ、<u>返還免除要件となる今後5年間を見据えた効果の検証</u>を行う。 <p>【コロナ禍の影響を踏まえた支援の継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により家計が急変した世帯を対象とする奨学金の<u>貸付や返還の弾力的な運用</u>を、<u>当面、継続</u>する。 <p>【大学生等の学習機会の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市政研究センターの有する専門性や有識者とのネットワークを活かし、<u>スポーツイベント開催に伴う宇都宮市民への社会効果の指標化と行政評価への活用</u>に関する研究などをテーマとする調査・研究に取り組む。 ・市民大学については、引き続き、<u>コロナウイルス感染防止対策を徹底し、安心して受講できる環境を整える</u>とともに、<u>開催日時の工夫や障がい者等への配慮</u>など、<u>若い世代をはじめ全ての市民が受講しやすい環境整備</u>を図る。 ・市民満足度については、令和3年度の市民満足度は微減となったが、<u>市提供講義の実施のほか、奨学金及び入学一時金における貸付け対象の拡大</u>など様々な取組を行ってきたところである。

基本施策2 生涯にわたる学習活動を促進する

施策(1) 自己を磨き社会を支える学習の推進

施策目標		一人一人が自己の実現や生活の向上, 地域社会の発展に向けて主体的に学ぶ機会や場が充実しています。						
施策指標	産出指標	生涯学習センターや図書館等における講座の開催数				令和3年度		評価
		目標値		335 講座		B		
		実績値		301 講座				
		基準値 (H28)	315 講座	目標値 (R4)	340 講座		達成度	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
	成果指標	生涯学習センターや図書館等の利用者数 (千人)	目標値		1,792 千人		—	
実績値			1,237 千人					
基準値 (H28)			1,762 千人	目標値 (R4)	1,800 千人	達成度		69.0%
目標値の設定方法			これまでの実績を参考に設定					
市民満足度 (基準値 (H29) 比)	23.9% (-4.5pt)	<p>市民満足度の推移 (%)</p> <p>● 調査結果 - - 基準値+5pt 基準値-5pt</p>			B	主要な構成事業の進捗状況		B
		計画以上 0 事業						
		計画通り 2 事業						
		計画より遅れ 0 事業						
		感染症の影響による変更 3 事業						
施策の 評価・分析	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響が続く中, <u>実施方法等の工夫をしながら講座を開催した結果, 開催数及び利用者数の実績は昨年度より増加した。</u>しかし, 施設利用者数については, 生涯学習センターにおける貸館の制限や図書館の休館などの対応により, 感染症拡大前に比べて著しく低下していることから, 評価除外とした。 生涯学習センターや人材かがやきセンターなどにおいて, <u>地域住民の課題に対応した講座を実施しているが, 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う活動の自粛が続く中, 感染拡大前に比べて学ぶ機会が満足に得られないことやオンライン講座などの学習環境の変化に対する市民の戸惑いなどから, 市民満足度が基準値を下回ったと考えられる。</u> 							
総合評価	概ね順調							

今後の施策の 取組方針	課題	<p>【社会情勢の変化を踏まえた学習環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度情報化や新型コロナウイルス感染症拡大により、新しい技術を活用した学びの充実が求められる中、<u>対面による学びとオンラインによる学びを組み合わせた学習機会の提供や社会情勢に見合った社会教育施設の環境整備など、市民が多様な形で自由に学習の機会を得ることができる基盤を整える必要がある。</u> <p>【地域教育の認知度を高める取組の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民意識調査において、「不満」「わからない」の回答が増加していることから、<u>事業全体の周知を図るとともに、市民の生涯学習への意識や本市の進める地域教育についての認知度を高めていく必要がある。</u>
	取組の 方向性	<p>【社会情勢の変化を踏まえた学習環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会情勢の変化を踏まえ、<u>市民がICTを活用しながら、より豊かな学びにつながる多様な学習機会を提供していくとともに、社会教育施設にICT環境を整備するなど、市民の学習への興味や関心を高め、学びを深めることができる環境の充実に取り組んでいく。</u> <p>【地域教育の認知度を高める取組の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市ホームページや「広報うつのみや」、SNS等を利用した事業の紹介など、<u>幅広い世代に向けて情報を発信していく仕組みづくりに取り組んでいく。</u>

施策（2）学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実

施策目標		学校・家庭・地域が互いに連携・協働し、地域全体で学び合い育ち合う教育活動に取り組む環境が整っています。																																	
施策指標	産出指標	地域における学習支援や体験活動等の教育活動数				令和3年度		評価																											
		目標値		5,690回		—																													
		実績値		3,357回																															
		基準値 (H28)	4,353回	目標値 (R4)	6,000回		達成度	59.0%																											
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定																																
	成果指標	地域における学習支援や体験活動等の教育活動に参加した児童・生徒数	目標値		156,672人		—																												
実績値			60,616人																																
基準値 (H28)			123,358人	目標値 (R4)	165,000人	達成度		38.7%																											
目標値の設定方法			これまでの実績を参考に設定																																
市民満足度 (基準値 (H29) 比)	25.5% (-8.4pt)	<p>市民満足度の推移</p> <table border="1"> <caption>市民満足度の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調査結果 (%)</th> <th>基準値+5pt (%)</th> <th>基準値-5pt (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>33.9</td> <td>38.9</td> <td>28.9</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>25.9</td> <td>38.9</td> <td>28.9</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>30.1</td> <td>38.9</td> <td>28.9</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>29.2</td> <td>38.9</td> <td>28.9</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>25.5</td> <td>38.9</td> <td>28.9</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>-</td> <td>38.9</td> <td>28.9</td> </tr> </tbody> </table>			年度	調査結果 (%)	基準値+5pt (%)	基準値-5pt (%)	H29	33.9	38.9	28.9	H30	25.9	38.9	28.9	R1	30.1	38.9	28.9	R2	29.2	38.9	28.9	R3	25.5	38.9	28.9	R4	-	38.9	28.9	<p>主要な構成事業の進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画以上0事業 計画通り3事業 計画より遅れ0事業 感染症の影響による変更2事業 		B
年度	調査結果 (%)	基準値+5pt (%)	基準値-5pt (%)																																
H29	33.9	38.9	28.9																																
H30	25.9	38.9	28.9																																
R1	30.1	38.9	28.9																																
R2	29.2	38.9	28.9																																
R3	25.5	38.9	28.9																																
R4	-	38.9	28.9																																
施策の評価・分析	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による学校の休校等に伴い、子どもたちへの学習支援や体験活動等の教育活動が制約されたことから、教育活動数、参加児童・生徒数ともに実績は減少しており、評価除外とした。 感染症対策を講じながら、「地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり（地域未来塾、放課後子ども教室（※10）」や「家庭の教育力向上（親学出前講座（※11）」に取り組んだが、学校の休校や活動自粛に伴い、活動や交流が制限されたことから、市民満足度は基準年度から減少したと考えられる。 																																		
総合評価	やや遅れ																																		

今後の施策の 取組方針	課題	<p>【新型コロナウイルス感染症を踏まえた学校・家庭・地域が連携した教育活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中、引き続き学校・家庭・地域が連携した教育活動を充実させていくことができるよう、支援していく必要がある。 <p>【家庭教育支援の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭教育支援については、家庭教育支援事業をより一層推進しながら、保護者の実情に応じた家庭教育支援を充実させる必要がある。 <p>【放課後子ども教室の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 放課後子ども教室事業については、全ての児童が自主性・社会性を育む機会を確保するため、未実施校での活動実施を促進するとともに、既実施校には更なる体験活動や交流活動等の充実に向けて支援していく必要がある。
	取組の 方向性	<p>【新型コロナウイルス感染症を踏まえた学校・家庭・地域が連携した教育活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的に活動する実施校区の事例を全校で情報共有できるようにするなど、各実施校区の実施手法の支援に取り組んでいく。 <p>【家庭教育支援の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭教育支援を必要とする保護者への支援に向けて、多くの保護者が学校等に集う機会の活用や庁内関係課との連携、「教えてミヤリー^(※12)」等のオンラインやSNS等の活用の検討など、より効果的な支援に取り組んでいく。 <p>【放課後子ども教室の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 放課後子ども教室事業について、未実施校には新規立ち上げへの働きかけを行うとともに、実施校には研修会・事例発表会などによる質の向上や財政面からの支援、各実施校の活動における相談への助言等を行うことで持続的な活動を促していく。

(※10) 放課後子ども教室

放課後等における全ての児童（参加希望の児童が対象）の健全育成を図るため、体験活動や異年齢交流活動、学習支援の場を提供することを通して、地域ぐるみで子どもを育む取組。

(※11) 親学出前講座

保育園や幼稚園、小中学校、子育てサークルのグループ活動などの保護者が集まる機会に市職員や企業等が出向き、子どもをより良く育てるための保護者の学びを支援する取組。

(※12) 教えてミヤリー

子育て世代のライフスタイルの多様化を踏まえ、夜間や休日などの24時間365日いつでも、どこでも気軽に「LINE」から子育てやごみの分別、住まいに関する問い合わせができるサービス。

施策（3）学んだ成果を生かした活動の推進

施策目標		学びを通して、様々な団体や人とのつながりが深まり、学んだ成果を生かして活動する機会や場が充実しています。																																			
施策指標	産出指標	生涯学習センターや図書館等における講座の開催数				令和3年度		評価																													
		目標値		335 講座																																	
		実績値		301 講座																																	
		基準値 (H28)	315 講座	目標値 (R4)	340 講座	達成度	89.9%																														
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定																																		
	成果指標	学習活動の支援に関わる活動者数				目標値	727 人	B																													
実績値		667 人																																			
基準値 (H28)		637 人	目標値 (R4)	750 人	達成度	91.7%																															
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定																																			
市民満足度 (基準値 (H29) 比)		17.4% (-5.8pt)	<p>市民満足度の推移</p> <p>(%) ● 調査結果 - - 基準値+5pt 基準値-5pt</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調査結果 (%)</th> <th>基準値+5pt (%)</th> <th>基準値-5pt (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>23.2</td> <td>28.2</td> <td>18.2</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>18.9</td> <td>23.9</td> <td>13.9</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>23.8</td> <td>28.8</td> <td>18.8</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>25.4</td> <td>30.4</td> <td>20.4</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>17.4</td> <td>22.4</td> <td>12.4</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>17.4</td> <td>22.4</td> <td>12.4</td> </tr> </tbody> </table>			年度	調査結果 (%)	基準値+5pt (%)	基準値-5pt (%)	H29	23.2	28.2	18.2	H30	18.9	23.9	13.9	R1	23.8	28.8	18.8	R2	25.4	30.4	20.4	R3	17.4	22.4	12.4	R4	17.4	22.4	12.4	C	主要な構成事業の進捗状況		B
年度	調査結果 (%)	基準値+5pt (%)	基準値-5pt (%)																																		
H29	23.2	28.2	18.2																																		
H30	18.9	23.9	13.9																																		
R1	23.8	28.8	18.8																																		
R2	25.4	30.4	20.4																																		
R3	17.4	22.4	12.4																																		
R4	17.4	22.4	12.4																																		
計画以上0事業																																					
計画通り2事業																																					
計画より遅れ0事業																																					
感染症の影響による変更3事業																																					
施策の評価・分析		<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、講座の開催について、ICTの活用など実施方法等の工夫をしながら講座を開催し、昨年度より開催実績は増加した。また、活動者数についても、感染症の状況を考慮しながら学習活動の支援に関わる活動者の育成に取り組んだ結果、活動者数は昨年度より微増した。 新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながら、学習成果の発表や学びを支える人材の育成に取り組んでいるが、感染症の影響による活動自粛が続く中、感染拡大前に比べて学ぶ機会が満足に得られないことやオンライン講座などの学習環境の変化に対する市民の戸惑いなどから、市民満足度が基準値を下回ったと考えられる。 																																			
総合評価		概ね順調																																			

今後の施策の 取組方針	課題	<p>【地域ぐるみで学びを支える人材の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題やニーズを踏まえ、様々な人や組織と連携しながら他者の<u>学習活動を支えることができる人材を育成し、その成果を活動へと結びつけていく</u>ことが必要である。 <p>【新型コロナウイルス感染症の状況を考慮した活動機会の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中、<u>オンライン等の新しい技術を活用しつつ地域住民同士がつながり学び合うきっかけをつくり、学んだ成果を活動へと結びつける機会を提供・支援していく</u>ことが必要である。
	取組の 方向性	<p>【地域ぐるみで学びを支える人材の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域においてきめ細かな家庭教育支援を行う人材を育成する研修会や<u>地域ぐるみで子どもを育む活動を促進する研修会等</u>を行い、多様な分野での人材育成や活動の促進に積極的に取り組むことで、<u>地域住民の学びと活動を活性化させる機会を創出していく</u>。 <p>【新型コロナウイルス感染症の状況を考慮した活動機会の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症が拡大する中、オンラインを使用した生涯学習団体の発表など、<u>安心・安全に配慮した学びの成果を披露する場を設ける</u>ことで、<u>活動の機会の充実を図り、地域住民同士がつながる方策についても検討していく</u>。

基本施策3 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する

施策(1) ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進

施策目標		市民の誰もが、それぞれのライフステージや志向に応じて、継続してスポーツを楽しむことができる機会が整っています。						
施策指標	産出指標	地域スポーツクラブがカバーする地域数			令和3年度		評価	
					目標値	25 地域		
					実績値	10 地域		
		基準値 (H29)	10 地域	目標値 (R4)	30 地域	達成度		40.0%
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
	成果指標	地域スポーツクラブ会員数				目標値	8,325 人	-
			実績値	3,077 人				
基準値 (H29)			3,336 人	目標値 (R4)	10,000 人	達成度	37.0%	
目標値の設定方法			これまでの実績を参考に設定					
市民満足度 (基準値 (H29) 比)	26.8% (-4.1pt)	市民満足度の推移			主要な構成事業の進捗状況		B	
					計画以上 0 事業 計画通り 2 事業 計画より遅れ 0 事業 感染症の影響による変更 3 事業			
施策の評価・分析		<ul style="list-style-type: none"> 地域スポーツクラブがカバーする地域数については、新型コロナウイルス感染症の影響により、クラブの設立等に関する地域での会議等が開催できず、令和3年度末時点では同水準であったが、<u>設立に前向きな地域への積極的な支援を行い、令和4年度に新たに1クラブ設立見込みとなった</u>。今後も他の地区においても説明会を行うなど、積極的な支援を行っていく。 クラブ会員数については、<u>新型コロナウイルス感染症の影響により、クラブの活動も縮小されたことから、会員数が増えなかった</u>。 新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえながら、地域で気軽にスポーツを継続的に楽しめるよう、<u>地域スポーツクラブの活性化やニュースポーツ^(※13)の普及促進</u>に取り組むなど、<u>子どもから高齢者まで幅広いライフステージに応じたスポーツ活動の推進に努めた</u>ところであるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、<u>各種スポーツ大会のほとんどが中止となった</u>こともあり、<u>市民満足度は低下したものと考えられる</u>。 						
総合評価		概ね順調						

(※13) ニュースポーツ

「ペタンク」や「グランドゴルフ」など、勝ち負けよりも楽しむことを目的とした子どもから高齢者まで幅広い世代を対象とした新しい形のスポーツ。

今後の施策の 取組方針	課題	<p>【身近な地域でのスポーツ活動の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「誰もが、いつでも、いつまでも」身近な地域で生涯スポーツを楽しめる環境づくりとして、<u>地域スポーツクラブを連合自治会39地区すべてを対象地域として設立することを目標としているが、民間のスポーツクラブの増加や、個人で身近に行えるスポーツへの関心の高まりなどもあり、現在39地区中、10地区までのカバー率で近年まで横ばいが続いている。令和4年度に新たに1クラブ設立見込みだが、更なるカバー地域の拡大に向けた取組が必要である。</u> <p>【気軽に楽しめるスポーツの普及促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯に渡りスポーツを楽しむ「ひとり1スポーツ」の実現に向け、引き続き、<u>地域におけるスポーツ活動に対する支援やニュースポーツの普及促進等を積極的に行うなど、市民のそれぞれのライフステージ等に応じたスポーツ活動を促進していく必要がある。</u>
	取組の方向性	<p>【身近な地域でのスポーツ活動の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存地域スポーツクラブの更なる活性化及び新規クラブの設立にあたっては、<u>地域での自立運営を目標としており、自治会やまちづくり協議会、地区スポーツ協会など各団体と連携しながら合意形成を図るため、地域内での説明会の実施や各種媒体による広報活動などにより、地域スポーツクラブの必要性について理解の促進を図りながら、積極的な支援を行っていく。</u>また、市健康ポイント事業の利用状況、民間のスポーツクラブ数や立地状況を把握し、既存クラブによるカバー地域の拡大など、<u>地域スポーツクラブにおいて市内全域をカバーする効果的・効率的な手法について検証していく。</u> <p>【気軽に楽しめるスポーツの普及促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い世代が気軽にスポーツを楽しめるきっかけづくりにつながるよう、<u>ニュースポーツの市民への周知や普及促進を図るため、市ホームページや広報紙などで用具の写真やニュースポーツの無料貸し出しの情報を掲載するとともに、動画配信サービスを活用した紹介動画の作成を検討するなど、情報の刷新を行っていく。</u>

施策（2）スポーツ活動環境の充実

施策目標		スポーツを体験したり，観たりする機会やスポーツ活動の成果を試す場，スポーツに適した施設等が整っています。														
施策指標	産出指標	スポーツ教室の参加者数			令和3年度		評価									
					目標値	49,810人										
					実績値	16,378人										
		基準値 (H29)	49,066人	目標値 (R4)	50,000人	達成度		32.9%								
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定													
	成果指標	体育館（競技場，ホール・多目的室，武道場）の稼働率			目標値	82.5%	-									
			実績値	81.9%												
基準値 (H29)		76.71%	目標値 (R4)	84.0%	達成度	99.2%										
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定														
市民満足度 (基準値 (H29) 比)		27.9% (-2.2pt)			<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">主要な構成事業の進捗状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>B</td> <td>計画以上 0 事業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計画通り 1 事業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計画より遅れ 0 事業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>感染症の影響による変更 4 事業</td> </tr> </tbody> </table>		主要な構成事業の進捗状況		B	計画以上 0 事業		計画通り 1 事業		計画より遅れ 0 事業		感染症の影響による変更 4 事業
主要な構成事業の進捗状況																
B	計画以上 0 事業															
	計画通り 1 事業															
	計画より遅れ 0 事業															
	感染症の影響による変更 4 事業															
施策の評価・分析		<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ教室については，指定管理者と連携しながら，子どもから高齢者まで幅広い世代のニーズに対応した様々な教室の開催を計画していたが，<u>新型コロナウイルス感染症の影響により</u>，教室の一部中止や規模を縮小することとなったことから，<u>参加者数が減少した</u>。そのような中においても，<u>自宅でスポーツを楽しむよう，気軽にできるトレーニング動画の制作・配信に努めた</u>。 ・体育館の稼働率については，<u>新型コロナウイルス感染症の影響により</u>，<u>大会が中止になるなど，施設の利用機会が減少した</u>ことから，<u>目標には達しなかった</u>。 ・スポーツ教室の縮小，「ジャパンカップサイクルロードレース」や「3×3ワールドツアーうつのみやマスターズ」の中止，宇都宮マラソン大会や市民スポーツ大会の中止，施設の休館など，<u>新型コロナウイルス感染症の影響により</u>，<u>スポーツを観戦・体験する機会や場所が減少している状況の中</u>，<u>トレーニング動画の配信（動画数：令和2年度作成5本，令和3年度作成1本，総再生回数：約17,400回）など，身近な場所でできるスポーツの推進に努めたこと</u>などもあり，<u>市民満足度が昨年度から微増したもの</u>と考えられる。 														
総合評価		概ね順調														

	課題	<p>【スポーツを行う機会の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、スポーツを体験する機会の減少や運動不足などが生じていることから、<u>市民の体力低下などに対応したスポーツ活動の機会を提供</u>する必要がある。 <p>【スポーツ活動の場の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民のスポーツ活動環境の充実を図るため、<u>施設の適正配置をはじめ、市民ニーズや老朽化等の状況を的確に捉えた施設の整備・改修</u>に取り組む必要がある。また、施設を適切かつ効果的に管理運営し、<u>市民のスポーツ活動の場を安定的に提供</u>する必要がある。 <p>【トップレベルのスポーツ機会の提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民のスポーツに対する興味・関心の高揚やスポーツを楽しむきっかけづくりをもたらすことができるよう、<u>トップレベルのプロスポーツの観戦機会を創出</u>する必要がある。 <p>【市民スポーツ活動の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民やスポーツ団体における競技力の向上につながるよう、<u>大会参加への支援</u>を行うなど、<u>日ごろのスポーツ活動を継続的に支えていく</u>必要がある。
今後の施策の取組方針	取組の方向性	<p>【スポーツを行う機会の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ活動環境の更なる充実にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響による市民のスポーツ離れや体力低下などを踏まえて、<u>関係団体と連携し、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、各種スポーツ教室を再開・増設</u>するとともに、<u>自宅で利用できるトレーニング動画などの取組を充実</u>していく。 <p>【スポーツ活動の場の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会環境の変化や老朽化等の状況に加え、新たなスポーツニーズにも考慮しながら、<u>宮原運動公園の再整備や北西部地域体育施設の整備推進、宇都宮清原球場改修に係る基本設計の実施、清原体育館へのWi-Fiの設置、雀宮体育館への空調設備の導入</u>などに取り組む。また、施設管理にあたっては、<u>指定管理者制度を活用し、更なるサービスの向上や、より効率的な管理運営による経費の縮減</u>を図る。 <p>【トップレベルのスポーツ機会の提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ振興財団などの関係団体と連携し、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、<u>本市をホームタウンとするプロスポーツチームへの支援やプロ野球等の開催誘致</u>に取り組む。 <p>【市民スポーツ活動の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>スポーツ振興財団や各競技団体、スポーツ関係団体、企業などと連携しながら、「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」等のビッグイベント開催によるスポーツへの興味・関心の高まりを生かして、市民のスポーツへの参加を促進</u>するとともに、<u>市民スポーツ大会及びマラソン大会の開催や、全国大会出場者及び応援団等に対する遠征費用の補助</u>などにより、<u>日ごろの成果を発揮する場の確保</u>に取り組む。

施策（3）スポーツを支える人材の育成・団体の活性化

施策目標		指導者の資質向上や活用が促進されるとともに、スポーツ関係団体やプロスポーツチームが活発に活動できる環境が整っています。																		
施策指標	産出指標	スポーツ指導者研修の受講者数				令和3年度		評価												
		目標値		776		-														
		実績値		-																
		基準値 (H29)	688 人	目標値 (R4)	800 人		達成度		-											
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定																	
	成果指標	スポーツ少年団 1 団体当たりの平均指導者数	目標値		5.57 人		-													
実績値			4.27 人																	
基準値 (H29)			5.21 人	目標値 (R4)	5.67 人	達成度		76.7%												
目標値の設定方法			これまでの実績を参考に設定																	
市民満足度 (基準値 (H29) 比)		26.0% (-1.0pt)	<p>市民満足度の推移</p> <table border="1"> <caption>市民満足度の推移 (調査結果)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>満足度 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>27.0</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>25.1</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>27.7</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>25.3</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>26.0</td> </tr> </tbody> </table>			年度	満足度 (%)	H29	27.0	H30	25.1	R1	27.7	R2	25.3	R3	26.0	<p>主要な構成事業の進捗状況</p> <p>計画以上 0 事業</p> <p>計画通り 1 事業</p> <p>計画より遅れ 0 事業</p> <p>感染症の影響による変更 4 事業</p>		B
年度	満足度 (%)																			
H29	27.0																			
H30	25.1																			
R1	27.7																			
R2	25.3																			
R3	26.0																			
施策の評価・分析		<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ指導者研修については新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から実施を見送った。 ・スポーツ少年団 1 団体当たりの平均指導者数については、<u>新型コロナウイルス感染症の影響によるスポーツ少年団の活動縮小に伴い、団の解散や、指導者の離任などがあり、平均指導者数が減少した。</u> ・市スポーツ協会による講習会やスポーツ推進委員会における研修、スポーツ少年団のジュニアリーダー研修会を実施し、スポーツ指導者の資質向上を図る予定であったが、<u>新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から事業を見送り、団体等への支援を行う機会も減少している状況の中、オンラインでの研修を行うなど、人材育成の推進に努めたことなどもあり、市民満足度が昨年度から微増したものと考えられる。</u> 																		
総合評価		概ね順調																		

今後の施策の 取組方針	課題	<p>【地域スポーツ振興の担い手の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民の多様化するスポーツ活動を継続的かつ安定的に支援できるよう、市民の安全・安心なスポーツ活動に資する研修等により、<u>スポーツ指導者の資質の向上</u>を図るなど、<u>スポーツを支える人材を発掘・育成</u>する必要がある。 <p>【地域スポーツ団体への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民のスポーツ活動へのきっかけづくりや更なる促進に向けて、地域に根差したスポーツ関係団体を支援するなど、<u>スポーツを支える団体の活性化</u>に取り組む必要がある。 <p>【本市をホームタウンとするプロスポーツチームへの活動支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> プロスポーツチームは、市民のスポーツ活動への動機づけや地域の活性化にも寄与する魅力的な地域資源であり、プロスポーツチームを通じた経済的・教育的効果等を十分発揮できるよう、<u>活動場所の確保</u>などの支援に取り組む必要がある。
	取組の方向性	<p>【地域スポーツ振興の担い手の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域のスポーツ振興の中心的な役割を担う「スポーツ推進委員」や、スポーツ協会と連携しながら、「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」等のビッグイベント開催を契機として、少年スポーツ振興の中心的な役割を担う「<u>少年スポーツ指導員</u>」を発掘・育成する。また、スポーツ指導者として必要な知識・スキルが習得できるよう、<u>オンラインや既存媒体を活用した資料や映像の配信</u>など、新型コロナウイルス感染症の感染リスクを受けにくい手法による研修を検討していく。 <p>【地域スポーツ団体への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民のスポーツの普及や更なる振興に寄与する各種団体の活性化に向けて、<u>市スポーツ協会やスポーツ振興財団への継続的な支援</u>や新たな連携事業を立案・展開していく。 <p>【本市をホームタウンとするプロスポーツチームへの活動支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市をホームタウンとするプロスポーツチームの意向や活動状況の把握に努め、<u>施設の修繕・維持管理や練習場の利用調整</u>など、<u>各チームの活動場所や活動機会の確保</u>につながる支援に取り組む。

基本施策4 暮らしに息づく文化の創造・活用を推進する

施策(1) 文化活動の充実

施策目標		市民が主体的に文化活動に取り組めるよう、文化鑑賞や活動ができる環境や人材・団体育成の支援体制が整っています。												
施策指標	産出指標	文化芸術事業の参加者・観覧者数				令和3年度		評価						
		目標値		356,000人		目標値								
		実績値		154,719人		達成度								
		達成度		43.7%										
	基準値(H28)		342,725人		目標値(R4)		360,000人							
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定											
成果指標	文化会館の施設稼働率	目標値		84.0%		評価								
		実績値		64.4%										
		基準値(H28)		78.6%		目標値(R4)		85.0%						
		達成度		76.7%										
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定												
市民満足度 (基準値(H29)比)		31.8% (-3.6pt)				<table border="1"> <tr> <th colspan="2">主要な構成事業の進捗状況</th> </tr> <tr> <td>計画以上0事業</td> <td rowspan="4">B</td> </tr> <tr> <td>計画通り3事業</td> </tr> <tr> <td>計画より遅れ0事業</td> </tr> <tr> <td>感染症の影響による変更2事業</td> </tr> </table>		主要な構成事業の進捗状況		計画以上0事業	B	計画通り3事業	計画より遅れ0事業	感染症の影響による変更2事業
主要な構成事業の進捗状況														
計画以上0事業	B													
計画通り3事業														
計画より遅れ0事業														
感染症の影響による変更2事業														
施策の評価・分析		<ul style="list-style-type: none"> ・施策目標の実現に向け、<u>市民芸術祭やジュニア芸術祭の開催のほか、文化会館や美術館を核とした鑑賞事業や教育普及事業などに取り組んでいる。</u> ・文化芸術事業の参加者・観覧者数については、<u>感染拡大防止策との両立を図り、活動成果の発表機会を確保するため、市民芸術祭やジュニア芸術祭などの事業において、無観客や音源審査など、開催内容を工夫して実施した。</u>また、美術館においては、<u>空調等改修工事のため休館となったことから、評価除外とした。</u> ・文化会館の施設稼働率についても、<u>同様の理由により、コンサート等の公演中止や、会議室等の利用機会の減少は続いていることから、オンライン配信の併用など、感染拡大防止策との両立を図った利用が戻りつつあるものの、評価除外とした。</u> ・長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、<u>有観客のイベント等の開催が減少したことに加え、開催にあたり、感染拡大防止策との両立を図るため、イベントの集客よりも市民活動の発表機会の確保に重点をおいて取り組むこととして周知機会が減少したことなどから、市民満足度は横ばいとなっている。</u> 												
総合評価		概ね順調												

今後の施策の 取組方針	課題	<p>【文化を身近に感じ、触れることのできる機会の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民や子どもたちが日々の暮らしの中に文化芸術を取り入れ、より豊かで充実した生活を送ることができるようにするため、<u>文化芸術に気軽に触れる場や発表・活動の機会の充実</u>を図るとともに、<u>文化芸術に関する情報発信の充実</u>を図っていく必要がある。 <p>【文化芸術に取り組む人材・団体の育成・支援の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市の文化芸術の創造と発展を図り、次世代に継承していくため、<u>文化芸術に取り組む人材や団体の育成・支援の充実</u>を図っていく必要がある。 <p>【文化芸術活動拠点の適切な管理・維持】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術活動の拠点施設である文化会館について、平成27～28年にかけて第1期大規模改修工事を実施したところであり、空調などの残りの設備について、<u>次期の改修に向け計画的に取り組んでいく</u>必要がある。 <p>【コロナ禍における文化芸術活動の維持・充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染症防止に係る各種指針に沿った取組を進め、<u>安心して文化芸術活動が行える環境を整え、文化活動の充実</u>を図る必要がある。
	取組の 方向性	<p>【文化を身近に感じ、触れることのできる機会の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第2次宇都宮市文化振興基本計画」に基づき、「文化を身近に感じ、活動できる環境づくりの推進」に向け、新型コロナウイルス感染症防止対策を取りながら、<u>市民芸術祭やジュニア芸術祭の開催に向けて取り組むほか、文化会館・美術館を拠点とした質の高い芸術文化の鑑賞機会や子どもたちへの教育普及事業を展開</u>する。また、うつのみや文化創造財団を核とした民間を含めた<u>文化芸術に関する幅広い情報の収集・発信の充実</u>を図る。 <p>【文化芸術に取り組む人材・団体の育成・支援の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「文化をつなぐ人材育成の推進」に向け、「宇都宮エスペール賞^(※14)」の選考による次代を担う<u>優れた芸術家の発掘</u>のほか、「宇都宮市文化協会」や「うつのみやジャズのまち委員会」等と連携した<u>市民主体による文化芸術活動の一層の促進</u>を図る。 <p>【文化芸術活動拠点の適切な管理・維持】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術活動の拠点施設である文化会館や美術館においては、安全かつ快適な施設環境の維持・向上を図るため、<u>計画的に施設整備を進める</u>。特に、文化会館においては、<u>今後の改修工事に向けてスケジュールや改修箇所の検討を進める</u>。 <p>【コロナ禍における文化芸術活動の維持・充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市の文化振興の推進や文化施設の安定的な経営を確保していくため、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながら、<u>文化芸術事業の実施や文化施設の管理・運営等に取り組んでいく</u>。

(※14) 宇都宮エスペール賞

文化芸術活動が顕著で、今後の活躍が期待できる本市ゆかりの芸術家に「宇都宮エスペール賞」を授与するとともに、育成金200万円を贈呈し活動支援を行う。受賞者は3年以内に成果発表（宇都宮美術館での展覧会、又は宇都宮市文化会館でのリサイタル）を行う。

施策（2）文化の創造・継承，保存・活用

施策目標		市民が郷土に誇りや愛着を感じ、地域の魅力づくりやきずなづくりに生かすことができるよう、文化資源が保存・活用されています。						
施策指標	産出指標	文化資源の周知啓発事業参加者数				令和3年度		評価
		目標値		39,000人		—		
		実績値		5,849人				
		基準値 (H28)	32,218人	目標値 (R4)	40,000人		達成度	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
	成果指標	文化財展示施設利用者数				目標値	157,000人	—
実績値		108,943人						
基準値 (H28)		177,592人	目標値 (R4)	178,000人	達成度	69.3%		
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
市民満足度 (基準値 (H29) 比)	24.5% (-4.9pt)	市民満足度の推移			B	主要な構成事業の進捗状況		B
						計画以上0事業		
						計画通り5事業		
						計画より遅れ0事業		
						感染症の影響による変更0事業		
施策の 評価・分析	<ul style="list-style-type: none"> ・施策目標の達成に向け、宇都宮城址公園や飛山城史跡公園など文化財展示施設を拠点とした普及啓発事業のほか、大谷石文化や百人一首など本市固有の文化資源の活用事業に取り組んでいる。 ・文化資源の周知啓発事業参加者数については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、伝統文化フェスティバルや百人一首市民大会などの各種事業が中止・縮小となったものであることから、評価除外とした。 ・文化財展示施設利用者数についても、同様の理由により、宇都宮城址公園ガイダンス施設などの各施設の利用者数が減少したものであることから、評価除外とした。 ・市民満足度については、周知啓発事業の開催などにおいて、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けているものの、地域において文化財を地域の活性化に活かしていこうとする機運や支援の充実を求める声が高まっていることなどにより、市民満足度は横ばいとなっている。 							
	総合評価							
	概ね順調							

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">今後の施策の 取組方針</p>	<p style="text-align: center;">課題</p>	<p>【歴史文化に対する理解促進や郷土への愛着の醸成に向けた調査研究及び普及啓発・情報発信等の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民や来訪者が本市の歴史文化について理解を深め興味関心を喚起するとともに、郷土への誇り・愛着の醸成や、認知度・来訪意欲を高めていくため、<u>歴史文化資源に関する把握・整理や調査研究を進め、その価値や魅力を導出するとともに、感染防止対策との両立を図りながら、普及啓発・情報発信などの取組を推進していく必要がある。</u> <p>【地域固有の歴史文化資源を活用した地域活性化の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域固有の歴史文化の価値や魅力を地域のきずなづくりや活性化に生かしていくため、<u>地域で育まれた伝統や生活文化を守り伝える団体の育成・支援を推進するほか、本市にゆかりのある歴史文化資源を活かした地域活性化の取組を推進していく必要がある。</u>
	<p style="text-align: center;">取組の 方向性</p>	<p>【歴史文化に対する理解促進や郷土への愛着の醸成に向けた調査研究及び普及啓発・情報発信等の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「宇都宮市歴史文化基本構想」及び「第2次宇都宮市文化振興基本計画」に基づき、「宇都宮文化の創造・継承」に向け、本市の歴史文化の価値や魅力を紐解く「<u>エイト・ストーリー</u>」や宇都宮城VR等を活用した普及啓発のほか、官民連携で構成する「宇都宮市大谷石文化推進協議会」を核として「<u>日本遺産 大谷石文化</u>」の魅力発信の取組を推進するとともに、地域において大切に守り継がれてきた歴史文化資源を市民共有の財産として保存・活用を図るため「<u>みや遺産</u>」制度を運用していく。 また、市民や子どもたちが本市の歴史文化について理解を深めるため、感染防止対策との両立を図りながら、「<u>伝統文化フェスティバル</u>」や「<u>宮っ子伝統文化体験教室</u>」などの普及啓発事業を行うとともに、本市の歴史文化の魅力を発信するまちなか情報交流機能について検討を進める。 さらに、市内に所在する国指定史跡について、その本質的価値や魅力を高めることにより、郷土への誇りや愛着を醸成し、史跡等を核とするまちづくり・地域づくりを進めていくため、ICTの活用も視野に入れながら、それぞれの状況に応じた整備等を進める。 <p>【地域固有の歴史文化資源を活用した地域活性化の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「文化を活かしたまちづくりの推進」に向け、「<u>宇都宮伝統文化連絡協議会</u>」や「<u>宇都宮市文化財ボランティア協議会</u>」と連携し市民主体による歴史文化資源の保存・活用の取組を推進する。 また、本市ゆかりの文化資源である「百人一首」を活かした「百人一首市民大会」については、感染防止対策を講じた上での開催について検討を進めつつ、「宇都宮学」など様々な機会を捉えた普及啓発の取組を継続していくほか、「<u>ジャズ</u>」を核とした音楽の振興を図るための「<u>学校普及ジャズ</u>」や、全国的にも稀有な「<u>うつのみや妖精ミュージアム</u>」において妖精資料を活用した企画展等を開催するなど、本市ならではの取組を推進する。

～第5章 広報・広聴活動～

1 広報活動

◆「教育委員会だより 第23号」の発行（令和4年2月）

【掲載先】市ホームページ

【内容】

将軍も宿泊した江戸時代の宇都宮城を最先端技術で再現！

- ・ 令和2年度に歴史文化資源の公開促進及び魅力発信の強化を図るため制作した「宇都宮城映像コンテンツ」（3DCG技術）について紹介

きらきらびと★みつけた

- ・ ICT支援員による児童生徒や先生に対する支援や学校給食功労者、スクールガード（学校安全ボランティア）、本市ゆかりのオリンピックの活躍について紹介

よくわかる教育委員会

- ・ コロナ禍における伝統文化フェスティバル、第23回うつのみやジュニア芸術祭、競技かるたONLINEうつのみや大会の紹介
- ・ 新任教育委員（小野 真一 委員）のコラム
- ・ 宮っ子ランチレシピ紹介

教育委員会からのお知らせ

- ・ 第14回うつのみや人づくりフォーラム・人権フェスタの紹介
- ・ 令和3年度から開校した新設小学校「ゆいの杜小学校」の紹介
- ・ 市内中学校の体育館におけるエアコン設置の紹介

◆メディアの有効活用

- ・ 市ホームページへの教育委員通信「みんなで育てよう かがやく宮っこ」の掲載（随時）
教育委員の活動報告（教育施設の視察、懇談会等）を発信した。

・ 教育委員会ホームページ（トップページ）の活用

学校（中学校1校、小学校2校）における活動の様子を撮影した写真を掲載し、市民の学校活動に対する一層の理解を図った。



◆パブリシティ^(※15)の有効活用

・パブリシティ相談窓口の設置

教育企画課と学校教育課にパブリシティ相談窓口を設置し、パブリシティを強化したい教育委員会事務局各課及び教育機関からの相談を受けて報道関係機関へ働きかけを行うなど、パブリシティの積極的活用を図った。

・パブリシティ活動の実績

【パブリシティ活動の活動指標（目標値）】

- 目標1 年間情報提供件数365件 <教育委員会1日1件パブリシティ運動>
 目標2 各学校・施設において年間1件以上の情報提供 <1施設1件パブリシティ運動>

【目標1 年間情報提供件数の実績】

	令和2年度	令和3年度	前年比
年間	197件	340件	+72.6%
情報提供強化月間 (8月～11月)	102件	106件	+3.9%

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によるイベント等の中止に伴い、情報提供件数が減少していたが、令和3年度はイベントの開催制限の緩和等により340件(前年度比+72.6%)となった。

⇒ 新型コロナウイルス感染症拡大前の水準近くまで回復したが、引き続き、「知ってもらう運動推進会議」の場を活用するなどし、年間365件の達成に向けて積極的にパブリシティ活動を推進する必要がある。

【目標2 1施設1件パブリシティ運動の実績】

	令和2年度*		令和3年度		前年比	
	実施施設数	実施率	実施施設数	実施率	実施施設数	実施率
各課・所 (7課・1所)	8施設	100%	8施設	100%	0施設	±0%
小学校 (69校)	17施設	25.0%	12施設	17.4%	▲5施設	▲7.6%
中学校 (25校)	7施設	28.0%	5施設	20.0%	▲2施設	▲8.0%
教育機関 (36施設)	13施設	36.1%	17施設	47.2%	+4施設	11.1%
合計 (138件)	45施設	32.8%	42施設	30.4%	▲3施設	▲2.2%

※令和2年度は、ゆいの杜小学校を除く137件で集計

令和3年度は令和2年度と比較して、全体の年間情報提供件数は増加したものの、実施施設数は微減となっており、施設毎の情報提供件数に偏りがある状況である。

〔※15〕パブリシティ

パブリシティとはPRの一種で、プレスリリースやインタビューへの応対などを通して、メディア取組内容などを取り上げてもらう活動のことをいう。

⇒ 平成26年度からパブリシティ活動を実施しているが、実施施設数は令和元年度から減少傾向にあり、これまで1度も実施していない施設も11施設（小・中学校）ある。

新型コロナウイルス感染症の影響により特色ある教育活動が減少し、広報に関する意識が消極的となっていることなどが要因と考えられるため、今後は、コロナ禍におけるパブリシティの好事例の共有や、令和3年度に作成した広報資料集の活用について、各施設に働きかけをすることにより、1施設年間1件以上の情報提供の達成に取り組む必要がある。

◆効果的な情報発信の仕組みづくり

・ 「知ってもらおう運動」の推進の継続

局内課長補佐をメンバーとした「知ってもらおう運動推進会議」を月1回開催し、教育委員会全体として効果的なPR戦略をまとめ、実践した。

・ 教育委員会広報事務研修の実施

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して実施を見送ることとし、過去の研修資料や広報手法、報道機関への対応等を集約した広報資料集を庁内のファイルサーバへ格納することで情報共有を図った。

【研修の目的】

教育委員会及び小中学校の広報担当者を対象に、市民や地域住民に対して情報発信をする際に必要な視点や、広報紙を編集する際の一目で伝わる「見せ方」のポイントや、誰もが読みやすいと感じる「書き方」のポイントなどを学び、広報力の向上を図る。

2 広聴活動

◆教育委員会の活動

教育現場からの意見を広く取り入れるため、教職員との懇談会などを通して、教育現場の意向を把握するとともに、教育委員会会議での「学習内容定着度調査結果」などの報告案件や「うつのみや学校マネジメントシステム」などの各種アンケートにより、教育現場の実態を把握した。

◆教育行政相談

令和3年度に教育委員会が投書やメール等で受けた教育行政相談については下記のとおりであり、教育委員会会議で報告し、情報共有を図った。

課名	相談内容	件数
教育企画課	その他	1
学校管理課	児童生徒の就学に関する事	1
	学校施設の大規模改造などに関する事	3
	学校施設の維持管理に関する事	6
学校教育課	学校の教育課程, 学習指導及び進路指導に関する事 (保健体育を除く)	30
	人権教育等各種教育に関する事	1
	その他	3
学校健康課	通学路の安全に関する事	8
	運動部活動に関する事	1
	学校における感染症に関する事	8
	その他	2
生涯学習課	生涯学習センターの事業に関する事	1
	放課後児童に関する事	3
	図書館・視聴覚ライブラリーの事業に関する事	3
	図書館・視聴覚ライブラリーの利用に関する事	15
	その他	6
文化課	芸術文化振興に関する事	4
	文化会館に関する事	2
	その他	2
スポーツ振興課	スポーツ施設, サイクリングターミナルの整備及び管理運営に関する事	14
	市民スポーツの振興に関する事	2
	その他	3

～第6章 総合評価～

1 評価

(1) 教育委員会の活動

【教育現場の現状や課題等を把握する教育委員会活動の実施】

コロナ禍の影響により中止とした活動もあったが、「いちご一会とちぎ国体」のメイン会場となるカンセキスタジアムとちぎの視察や中学校における1人1台端末を活用した授業の視察を実施したほか、コロナ禍における教職員の働き方改革の現状や課題を把握するための教職員との懇談会を実施するなど、教育現場の実態や課題の把握を図ることができた。さらに教育委員と実務担当者が意見交換を行う委員 de サロンにより、各課業務の現状や課題についての理解を深め、委員間での共通認識を図るとともに、教育委員の意見を踏まえながら各施策事業等を推進することができた。

また、教育委員会主要事業の進捗状況を定期的に報告することにより、教育委員の教育委員会事務局に対するチェック機能の確保を図ることができたほか、各委員がテーマを提案する自由討議については、令和3年度より「事前説明」を実施するようにしたことで、限られた時間の中でより掘り下げた議論を行うことができた。

これらの取組においては、適宜教育委員の意見を踏まえながら工夫改善を図っており、教育委員会会議において充実した議論を行うことができたことから、教育現場の実態や意向、課題を捉えた活動であったと評価する。

【情報モラルの向上とスマートフォン等の適正利用に向けた総合教育会議の実施】

令和3年度から1人1台端末が導入され、ICTに触れる機会が増加する中、スマートフォン等の危険性や適切な使い方などについて周知する出前講座や共同宣言、教職員の研修など、情報モラルの意識向上に向けた取組の状況や今後の方向性について、市長と協議・調整を行い共通認識を図ることができたことから、市長と教育委員会が方向性を共有した活動であったと評価する。

(2) 教育委員会施策の推進

【教育委員会施策事業の着実な推進】

第6次総合計画基本計画の体系のうち、教育委員会に関係する4つの基本施策とそれを構成する16の施策について、本市で実施している行政評価を活用しながら評価した。新型コロナウイルス感染症の影響に伴う、講座の延期や中止、施設の利用制限などにより、施策指標の達成度が適切に得られなかった施策もあるが、総合評価はほとんどの施策において「概ね順調」又は「順調」であることから、着実に推進が図られていると評価する。

<基本施策1 確かな自信と志を育む学校教育を推進する>

【1人1台端末の導入等による主体的な学習の推進】

全児童生徒向けに導入した1人1台端末を活用することにより、個別最適な学びと協働的な学びの推進に努めているほか、安全で快適な教育環境の整備を計画的に進めるなど、これからの時代を力強く生きるための学校教育の推進や児童生徒の学びの保障に努めることができた。

＜基本施策2 生涯にわたる学習活動を促進する＞

【安心して生涯学習や地域活動に参加できる環境の整備】

生涯学習事業の推進にあたっては、ICTの活用など実施手法等を工夫して講座を開催したほか、子どもの家など各事業の運営者やその指導員、地域のボランティア等と緊密に連携を図り、感染症対策を講じながら、地域における児童の健全育成事業に取り組むなど、市民が安心して生涯学習や地域活動に参加できる環境を整えることができた。

＜基本施策3 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する＞

【「ひとり1スポーツ」の推進】

新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえながら、地域で気軽にスポーツを継続的に楽しめるよう地域スポーツクラブの活性化や設立に向けた支援、ニュースポーツの普及促進に取り組むほか、「第2次宇都宮市スポーツ施設整備計画」に基づき、「北西部地域体育施設の整備」や「宮原運動公園の再整備」を推進するなど、市民がそれぞれのライフスタイルに応じ、生涯を通じてスポーツに親しむ「ひとり1スポーツ」の推進につなげることができた。

＜基本施策4 暮らしに息づく文化の創造・活用を推進する＞

【文化活動における情報発信や実施手法の創意工夫】

文化活動においては活動成果の発表機会を確保するため、無観客開催・オンライン開催など各種事業を工夫しながら実施したほか、文化財展示施設を拠点とした普及啓発事業や大谷石文化など本市固有の文化資源の活用事業に取り組むなど、市民が文化活動に触れる機会を創出することができた。

⇒ 上記のことから、コロナ禍においても、安全・安心対策を講じながら創意工夫を發揮し、各施策事業の推進が図られていると評価する。

(3) 広報・広聴活動

【「第2次宇都宮市教育委員会広報プラン」に基づく広報・広聴活動の推進】

「第2次宇都宮市教育委員会広報プラン」をもとに、教育委員会及び小中学校の広報担当者に向けた教育委員会広報事務研修資料や令和3年度に作成した広報資料集を情報共有するとともに、「知ってもらおう運動推進会議」において、教育委員会全体としての効果的なPR戦略のまとめ・実践を行った。

また、教育委員会だよりについては、委員 de サロンでの教育委員からの意見を踏まえ、写真へ注釈を加えたり、記事毎に問い合わせ先を記載したりするなど、読み手の理解の促進につながるよう内容の充実を図った。

パブリシティ実施施設数は、令和元年度から減少傾向となっており、施設毎の活動に偏りが見られるものの、パブリシティ活動による情報提供件数は新型コロナウイルス感染症拡大前の水準近くまで回復しており、各種取組により、教育委員会の事業を「理解してもらう」ための広報活動の推進や職員の広報力の向上を一定程度図ることができたことから、効果的な活動であったと評価する。

(4) 総合評価

「(1) 教育委員会の活動」、「(2) 教育委員会施策の推進」、「(3) 広報・広聴活動」の全てにおいて一定の成果を上げられたことから、令和3年度の取組は本市教育行政の推進に資するものであったと評価する。

2 課題と今後の方向性

(1) 教育委員会の活動

【教育現場の実態・意向の把握や理解の深化による活発な議論の実施】

教育現場の実態や意向などを把握するとともに、委員同士の共通認識や理解を深め、教育委員会会議において更に活発な議論を行っていく必要がある。

⇒【教育施設視察や教育懇談会の実施及び自由討議の充実】

新型コロナウイルス感染状況等を注視した上で、宇都宮市における新たな取組や時事的な課題を考慮しながら、教育施設視察や教育懇談会などを実施する。また、実施後は、定例会における自由討議の時間で、委員同士の意見交換（振り返り）を行うこととするなど、委員同士の共通認識や理解を深められるよう自由討議の充実を図る。

また、教育委員会の会議開催にあたっては、オンライン会議の体制を整備したため、新型コロナウイルス感染症の拡大状況等を踏まえて、必要に応じてオンラインによる会議を開催するなど、安全・安心な会議の運営に努めていく。

【総合的・横断的な教育行政の推進】

第6次総合計画に掲げる「子育て・教育の未来都市」、「魅力創造・交流の未来都市」の実現に向け、市長と教育委員会がより緊密に連携を図り、総合的・横断的な教育行政を推進する必要がある。

⇒【総合教育会議を通じた協議・調整の実施】

総合教育会議の継続的な実施により、市長と教育委員会が協議・調整を行い連携を図ることで、より一層の教育行政の充実に努めていく。

(2) 教育委員会施策の推進

【総合的・体系的な教育行政の推進】

教育委員会施策については、「子育て・教育の未来都市」の実現に向けて、総合的・体系的に教育行政を推進する必要がある。

⇒【学校教育や家庭教育・地域教育などの推進】

学校教育推進計画や地域教育推進計画等の改定にあたり、未来を生き抜く力を養う学校教育の推進や家庭・地域の教育力の向上に取り組むとともに、安全で快適な学校施設の整備や文化振興、生涯スポーツの推進など総合的・体系的に教育行政の充実に図っていく。

また、各種事業の推進にあたっては、引き続き感染症対策に努め、コロナ禍においても市民の学びを確保・保障していけるよう実施手法の工夫改善を図るとともに、家庭・地域等との更なる連携に努めていく。

(3) 広報・広聴活動

【「理解してもらう」ための広報活動の推進】

「第2次宇都宮市教育委員会広報プラン」に基づき、「年間情報提供件数365件」及び「1施設年間1件以上パブリシティ運動」の達成に向け、教育委員会で行っている取組の目的や内容を「理解してもらう」ための組織的・戦略的・効果的な広報活動を一層推進する必要がある。

⇒〔広報活動意識や広報スキルの底上げ〕

令和3年度に新たに作成した「教育委員会広報資料集」の活用等により教育現場におけるパブリシティ活動の活性化に努めるとともに、広報活動意識や、近年のICT化の進展に伴う広報媒体の多様化に対応できるスキルの向上を目的とした研修の継続実施などにより、教育委員会職員一人ひとりの広報活動に対する意識の醸成を図っていく。

また、パブリシティ活動の好事例等について情報共有を実施することにより局内の広報活動の強化を図る。

～第7章 評価委員による所見～

1 教育委員会評価委員会議

【日 程】令和4年7月4日（月）

【結 果】

- ・事務局から本年度の教育委員会評価の概要について説明したのち、「令和3年度評価委員の所見への対応状況」、「教育委員会の活動」、「教育委員会施策」、「広報・広聴活動」についてご意見をいただいた。
- ・各評価委員からの所見については下記のとおり。



2 評価委員による所見

◆ 藤井 佐知子 委員

(1) 総合評価

- ・全体的には、評価の趣旨に則り、教育委員会の点検・評価が適切に行われていると判断する。
- ・評価・点検の方法も適切である。
- ・報告書については、写真や図表を掲示してわかりやすくまとめられており、特に第4章は、施策ごとに見開き2頁に統一されて見やすくなった。また、「今後の施策の取組方針」では小見出しが付けられるなど改善されたが、「課題」と「取組の方向性」に重複部分が見受けられるので、一対一対応にするなど、更なる工夫があるとよい。各施策において、関連する調査結果の数値の変遷やアピールポイントをコラム的に掲載するなど、一層の理解を促すための方策を検討していただきたい。

(2) 教育委員会の活動

- ・教育委員会会議や活動は全般的に適切に行われている。教育懇談会は、学校における働き方改革という時宜にかなったテーマで行われ、今後も現場の声を直接聴く機会として充実して行ってほしい。
- ・教育施設視察は、異なる学校種の多様な場を視察先に選定するなど、現場の様子を多面的に観察できるよう工夫していただきたい。
- ・総合教育会議についての記述が少ないが、市長部局と教育委員会の連携は重要なので少し詳しい説明があるとありがたい。
- ・教育委員会の意見をどのように教育行政に反映させたかについての説明があると、教育委員会の意義が高まると思われるので、引き続き記載に努めていただきたい。

(3) 教育委員会施策

- ・すべての施策に関して、施策目標、施策指標とその成果、施策の評価・分析、今後の施策の取組方針（課題と取組の方向性）が具体的に記載され、適切に自己評価がなされていると判断する。
- ・成果指標については、根拠データを明示してほしい。
- ・小中一貫教育・地域学校園制度については、令和3年度に実施した検証を基に、ポイントを定めて計画的に見直しを行ってほしい。現場の声を丁寧に拾いながら、見直しのプロセスも開示することが期待される。
- ・課題や取組の方向性は、抽象的な記述も散見されるので、網羅的でなく重要施策に絞って1年間の努力や成果をエビデンスと共に示すなど、より一層の工夫を期待する。

- ・第6章の総合評価における教育委員会施策の記載は、特定の施策だけでなく、教育委員会としての総括（何が進んで何が停滞したか、今後の課題はこれ、などを端的に）がわかるような記載が望ましい。そうすることで、教育委員会が何に重きを置き、どのような課題意識を持っているかがより鮮明に伝わると思う。

(4) 広報・広聴活動

- ・教育委員会だよりやメディアの活用、パブリシティの有効活用などによって市民への情報発信が積極的に行われている。様々な努力を継続していただきたい。
- ・教育委員会だよりは、デザイン、レイアウト共に格段に改善され読みやすくなった。内容面での工夫もみられクオリティの向上が確認された。
- ・保護者や市民の意見・要望を広く聴くための場を設定するなど、開かれた教育委員会をめざした取組を期待する。

◆ 鈴木 明美 委員

(1) 総合評価

- ・総合評価については文字ばかりでなく、写真等も交えながらわかりやすく、見やすくしていただきたい。例えば1人1台端末やひとり1スポーツの推進の取組に係る写真等を掲載してほしい。

(2) 教育委員会の活動

- ・視察回数は、毎年状況に応じて何回と決めずに行ってほしい。学校との懇談会は、地域教育の推進においても有効な取組だと感じるため、PTAや地域協議会等も巻き込んで開催してほしいと思う。
- ・自由討議などの教育委員が自由な意見を出せる場はとても必要であると感じるため、引き続き実施してほしい。

(3) 教育委員会施策

- ・施策の施策指標をもっと見やすく、わかりやすい工夫をお願いしたい。市民満足度の部分も小さく、確認しづらいので、表現の仕方に工夫をお願いしたい。

(4) 広報・広聴活動

- ・教育委員会だよりはとても見やすく、小中学生がいない家庭にとっても、宇都宮市の教育委員会の活動がわかりやすいと思う。
- ・HPについては、キッズページがあり子どもにもわかりやすいよう工夫されていると思う。中学生向けのコーナー（悩みがある場合の相談先や携帯（SNS）のトラブルへの注意喚起等）などがあると良いと思う。

～ おわりに ～

社会情勢の変化や教育ニーズの多様化などにより、教育をめぐる様々な課題が顕在化している中、その中核を担う教育委員会においては、これまで以上に学校や家庭、地域、企業などと一体となった取組が求められております。

本市教育委員会においては、「共に歩む教育委員会、先を見る教育委員会」をモットーに、教育現場の実態を踏まえながら、学校と共に、家庭と共に、また地域と共に、10年先、20年先を見据えた教育行政を推進しております。

また、本市では、平成17年度に策定した、本市における人づくりの指針である「宮っこ未来ビジョン」の基本理念及び基本目標を、平成27年度に宇都宮市教育大綱として位置付けたところであり、心豊かでたくましく生きることができる人づくりの実現という目標に向かい、学校教育の充実はもとより、家庭や地域の教育力の向上などの様々な取組を展開しております。

令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症への対応が一定程度整理されてきた中で、感染症対策を十分に講じながら、できる限り子ども達の成長の場の確保に努めるとともに、誰一人取り残すことのない学びの保障に向け取り組んできたところでもあります。学校教育分野では、全児童生徒向けに導入した1人1台端末の活用により、学校教育の推進や児童生徒の学びの保障に努めるとともに、社会教育分野におきましても、市民が安心して生涯学習や地域活動に参加できる環境の整備や生涯スポーツ、文化活動の推進に努めてまいりました。

今後につきましても、目の前の課題に対し真正面から向き合い、どのような状況下においても子ども達の学びを止めることのないよう、教育活動に積極的に取り組んでまいります。

教育委員会の点検・評価につきましては、議会への報告や市民への公表を行うことにより、本市教育委員会の取組について多くの市民の皆さまに知っていただくとともに、本市教育行政への御理解、御協力をいただく機会となることを期待しております。

今後とも、この点検・評価の結果を踏まえ、本市の教育を担う責務を十分に認識しながら、常に教育行政の根本に立ち返り、社会情勢や新たな教育ニーズに応じた効果的な施策の展開に努め、新しい宇都宮の未来を切り拓く「人づくり」を推進してまいります。

令和3年度 教育委員会付議案件等一覧

◆令和3年第7回教育委員会【臨時会】（令和3年4月1日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第15号	令和3年度教育委員会基本方針について

◆令和3年第8回教育委員会【定例会】（令和3年4月22日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第16号	令和3年度教育委員会の活動について
	議案第17号	宇都宮市スポーツ推進審議会委員の委嘱について
報告	報告第27号	令和3年度教育委員会主要事業について
	報告第28号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第29号	令和2年度宇都宮市奨学金貸付者の選考結果について
	報告第30号	令和2年度宇都宮市入学一時金貸付者の選考結果について
	報告第31号	教育長の権限に属する事務の委任及び事務決裁規程の一部改正
	報告第32号	宇都宮市文化財保存事業費補助金交付要綱の一部改正
その他	報告第33号	宇都宮市体育施設条例施行規則の一部改正
	(1)	令和3年度「図書館カレンダー・しおり」の広告掲載者の決定について
	(2)	令和2年度第3回社会教育委員の会議の結果について
	(3)	宇都宮市文化会館2021プログラムについて
	(4)	宇都宮美術館 令和3年度展覧会スケジュールについて
	(5)	第42回宇都宮市民芸術祭について
	(6)	令和2年度宇都宮市スポーツ推進審議会の結果について
(7)	令和3年度宇都宮市スポーツ振興財団の自主事業について	

◆令和3年第9回教育委員会【定例会】（令和3年5月26日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第18号	令和4年度使用教科用図書の採択の基本方針等について
	議案第19号	教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則の制定
	議案第20号	宇都宮市生涯学習センター運営審議会委員の委嘱について
	議案第21号	宇都宮市スポーツ推進審議会委員の委嘱について
	議案第22号	宇都宮市教育支援委員会委員の委嘱について
	議案第23号	宇都宮市教育支援委員会への諮問について
報告	報告第34号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第35号	令和2年度就学援助の支給状況等について
	報告第36号	宇都宮市教育支援委員会から答申を受けた対象者の就学先について
その他	(1)	令和3年度視聴覚ライブラリー映画会一覧表について

◆令和3年第10回教育委員会【臨時会】（令和3年6月3日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第24号	教育委員会に係る議会の議決を経るべき事件の意見の提出について
報告	報告第37号	令和4年度指定管理者の導入及び更新について

◆令和3年第11回教育委員会【臨時会】（令和3年6月7日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第25号	指定管理者の指定の取消の取消について
	議案第26号	教育委員会に係る議会の議決を経るべき事件の意見の提出について

◆令和3年第12回教育委員会【定例会】（令和3年6月25日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第27号	宇都宮市通学区域審議会委員の解職及び委嘱について
	議案第28号	宇都宮市視聴覚ライブラリー運営委員会委員の委嘱について
	議案第29号	宇都宮市社会教育委員の委嘱について
報告	報告第38号	令和3年6月議会一般質問の概要について
	報告第39号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第40号	令和2年度児童虐待通告受付等の状況について
	報告第41号	学校等事件・事故について
その他	(1)	企画展「うつのみやの戦災展」について

◆令和3年第13回教育委員会【定例会】（令和3年7月21日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第30号	令和4年度宇都宮市教育委員会組織・定員の方針について
報告	報告第42号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第43号	育英事業における収納対策について
	報告第44号	携帯電話の学校への持ち込みに関する指針の改訂について
	報告第45号	学校等事件・事故について
その他	(1)	第27回うつのみや百人一首市民大会の開催中止及び代替事業の実施について
	(2)	文化会館事業 伝統芸能鑑賞シリーズ 宇都宮能「観世流」公演について

◆令和3年第14回教育委員会【臨時会】（令和3年7月29日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第31号	令和4年度使用宇都宮市立小・中学校教科用図書の採択について

◆令和3年第15回教育委員会【臨時会】（令和3年8月23日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第32号	指定管理候補者の選定について

◆令和3年第16回教育委員会【定例会】（令和3年8月23日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第33号	教育委員会に係る議会の議決を経るべき事件の意見の提出について
	議案第34号	令和3年度教育委員会点検・評価報告書について
報告	報告第46号	令和3年度教育委員会主要事業の進行管理について
	報告第47号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第48号	令和3年度宇都宮市返還免除型育英修学資金貸付者の選考結果について
	報告第49号	宇都宮市公園条例施行規則の一部改正
その他	(1)	令和3年度第1回社会教育委員の会議の結果について
	(2)	令和3年度第1回生涯学習センター運営審議会の結果について
	(3)	令和3年度第1回宇都宮市視聴覚ライブラリー運営委員会の結果について
	(4)	令和3年度下半期視聴覚ライブラリー映画会について
	(5)	第59回宇都宮市民スポーツ大会の中止について
	(6)	第35回宇都宮マラソン大会の縮小開催について

◆令和3年第17回教育委員会【定例会】（令和3年9月21日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第35号	令和4年度宇都宮市立小・中学校教職員定期異動に係る基本的な考え方について
	議案第36号	宇都宮市立図書館条例施行規則の一部改正
報告	報告第50号	令和3年9月議会一般質問の概要について
	報告第51号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第52号	隣接校との通学区弾力化等による令和3年度入学者の募集について
	報告第53号	令和2年度いじめ、暴力行為、不登校の状況について
その他	(1)	「第16回うつのみや食育フェア」のオンライン開催について

◆令和3年第18回教育委員会【定例会】（令和3年10月22日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第37号	令和4年度教育委員会当初予算編成方針について
	議案第38号	指定管理候補者の選定について
報告	報告第54号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第55号	令和3年度宇都宮市教育委員会教育支援者感謝状受賞者の決定について
	報告第56号	令和3年度「全国学力・学習状況調査」、「とちぎっ子学習状況調査」の結果について
	報告第57号	学校等事件・事故について
	報告第58号	令和3年度宇都宮市社会教育振興貢献企業等への感謝状贈呈企業等の決定について
その他	(1)	第35回宇都宮マラソン大会の中止について

◆令和3年第19回教育委員会【定例会】（令和3年11月19日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第39号	教育委員会に係る議会の議決を経るべき事件の意見の提出について
	議案第40号	教職員の人事の内申について
報告	報告第59号	令和4年度教育委員会当初予算要求概要について
	報告第60号	教育行政相談の内容と対応について
その他	(1)	第14回うつのみや人づくりフォーラムの開催について
	(2)	令和3年宇都宮市成人式の実施結果について
	(3)	令和3年度第2回生涯学習センター運営審議会の結果について
	(4)	令和3年度宇都宮市民大学公開講座について
	(5)	競技かるた ONLINE うつのみや大会の実施結果について
	(6)	第16回宇都宮伝統文化フェスティバルの実施結果について
	(7)	令和3年度教育センター夜間公開講座「教育なう」の開催について

◆令和3年第20回教育委員会【臨時会】（令和3年11月29日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第41号	教育委員会に係る議会の議決を経るべき事件の意見の提出について

◆令和3年第21回教育委員会【定例会】（令和3年12月27日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第42号	附属機関における書面等による会議の開催に伴う関係規則の整備に関する規則の制定
報告	報告第61号	令和2年12月議会一般質問の概要について
	報告第62号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第63号	学校等事件・事故について
その他	(1)	第14回うつのみや人づくりフォーラム・人権フェスタの開催について

◆令和4年第1回教育委員会【定例会】（令和4年1月26日）

種別	議案番号	件名
審議	議案第1号	宇都宮市学校給食の管理及び執行に関する規則の一部改正
	議案第2号	宇都宮市立視聴覚ライブラリー条例施行規則の一部改正
報告	報告第1号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第2号	学校等事件・事故について
	報告第3号	令和3年度小・中学校卒業式あいさつ文について
	報告第4号	宇都宮市陽南プールの取扱いについて
	報告第5号	「宇都宮市学校教育における合理的配慮に係る手引き」の改定について
	報告第6号	学校ICT支援員の配置について
	報告第7号	「宇都宮市学校事務職員育成指標」の策定について
その他	(1)	令和3年度宇都宮市成人式の実施結果について

◆令和4年第2回教育委員会【定例会】(令和4年2月17日)

種別	議案番号	件名
審議	議案第3号	教育委員会に係る議会の議決を経るべき事件の意見の提出について
	議案第4号	令和4年度教育委員会の組織について
	議案第5号	宇都宮市社会教育委員の解職及び委嘱について
	議案第6号	宇都宮市指定文化財の指定について
	議案第7号	宇都宮市民遺産(みや遺産)の認定について
報告	報告第8号	令和3年度教育委員会主要事業の進行管理について
	報告第9号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第10号	令和3年度宮っ子表彰及び義務教育皆勤賞表彰について
	報告第11号	令和3年度「宮っ子心の教育表彰」教育委員会賞について
	報告第12号	「小中一貫教育・地域学校園」制度の検証について
	報告第13号	「うつのみや学校マネジメントシステム」全体アンケートの令和3年度結果概要について
	報告第14号	学校等事件・事故について
	報告第15号	令和3年度本市児童生徒の体力について
その他	(1)	隣接校との通学区域弾力化等による令和4年度入学者の募集結果について
	(2)	教育委員会だより第23号について
	(3)	令和3年度第1回宇都宮市スポーツ推進審議会の結果について

◆令和4年第3回教育委員会【臨時会】(令和4年3月9日)

種別	議案番号	件名
審議	議案第8号	教育委員会における職の設置について
	議案第9号	職員の人事について
	議案第10号	教職員の人事の内申について
	議案第11号	教職員の人事の内申について

◆令和4年第4回教育委員会【定例会】(令和4年3月18日)

種別	議案番号	件名
審議	議案第12号	職員の人事について
	議案第13号	宇都宮市教育委員会の組織及び運営に関する規則の一部改正
	議案第14号	「北西部地域体育施設整備基本計画」の策定について
	議案第15号	宇都宮市立小中学校施設の開放に関する規則の一部改正
協議	協議第1号	令和4年度教育委員会基本方針(案)について
報告	報告第17号	令和4年3月議会一般質問の概要について
	報告第18号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第19号	「(仮称)第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」の策定について
	報告第20号	令和3年度宇都宮市「学習内容定着度調査」及び「学習と生活についてのアンケート」の結果概要について
	報告第21号	学校等事件・事故について
	報告第22号	「(仮称)第3次宇都宮市読書活動推進計画」の策定について
	報告第23号	令和5年二十歳を祝う成人のつどいについて
その他	(1)	令和3年度人材かがやきセンター主催講座実施結果について
	(2)	令和3年度第3回生涯学習センター運営審議会の結果について
	(3)	令和3年度第2回社会教育委員の会議の結果について
	(4)	令和3年度第2回宇都宮市視聴覚ライブラリー運営委員会(書面開催)の結果について

【教育委員会施策ごとの評価一覧（令和3年度）】

施策名	産出指標(※1)	成果指標(※1)	市民満足度(※2)	主要な構成事業の進捗状況(※3)	総合評価(※4)
1 確かな自信と志を育む学校教育を推進する					
(1) 成長の基盤となる知・徳・体の育成	B	B	C	B	概ね順調
(2) 未来を生き抜く力の育成	B	B	B	B	概ね順調
(3) 地域とともにある学校づくりの推進	-	B	C	B	やや遅れ
(4) 教育環境の充実	A	A	B	B	順調
(5) 多様な児童生徒に応じた指導・支援の推進	A	B	B	B	概ね順調
(6) 教職員の資質・能力と学校の組織力の向上	B	A	C	B	概ね順調
(7) 幼児教育の推進	-	B	B	B	概ね順調
(8) 高校、高等教育の充実・支援	A	A	B	B	順調
2 生涯にわたる学習活動を促進する					
(1) 自己を磨き社会を支える学習の推進	B	-	B	B	概ね順調
(2) 学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実	-	-	C	B	やや遅れ
(3) 学んだ成果を生かした活動の推進	B	B	C	B	概ね順調
3 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する					
(1) ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進	-	-	B	B	概ね順調
(2) スポーツ活動環境の充実	-	-	B	B	概ね順調
(3) スポーツを支える人材の育成、団体の活性化	-	-	B	B	概ね順調
4 暮らしに息づく文化の創造・活用を推進する					
(1) 文化活動の充実	-	-	B	B	概ね順調
(2) 文化の創造・継承、保存・活用	-	-	B	B	概ね順調

(※1)産出指標・成果指標の達成度 A:100%以上 B:70%~100%未満 C:70%未満

(※2)市民満足度(意識調査結果対基準値(H29)) A:向上(+5pt以上) B:維持(±5pt未満) C:低下(-5pt以下)

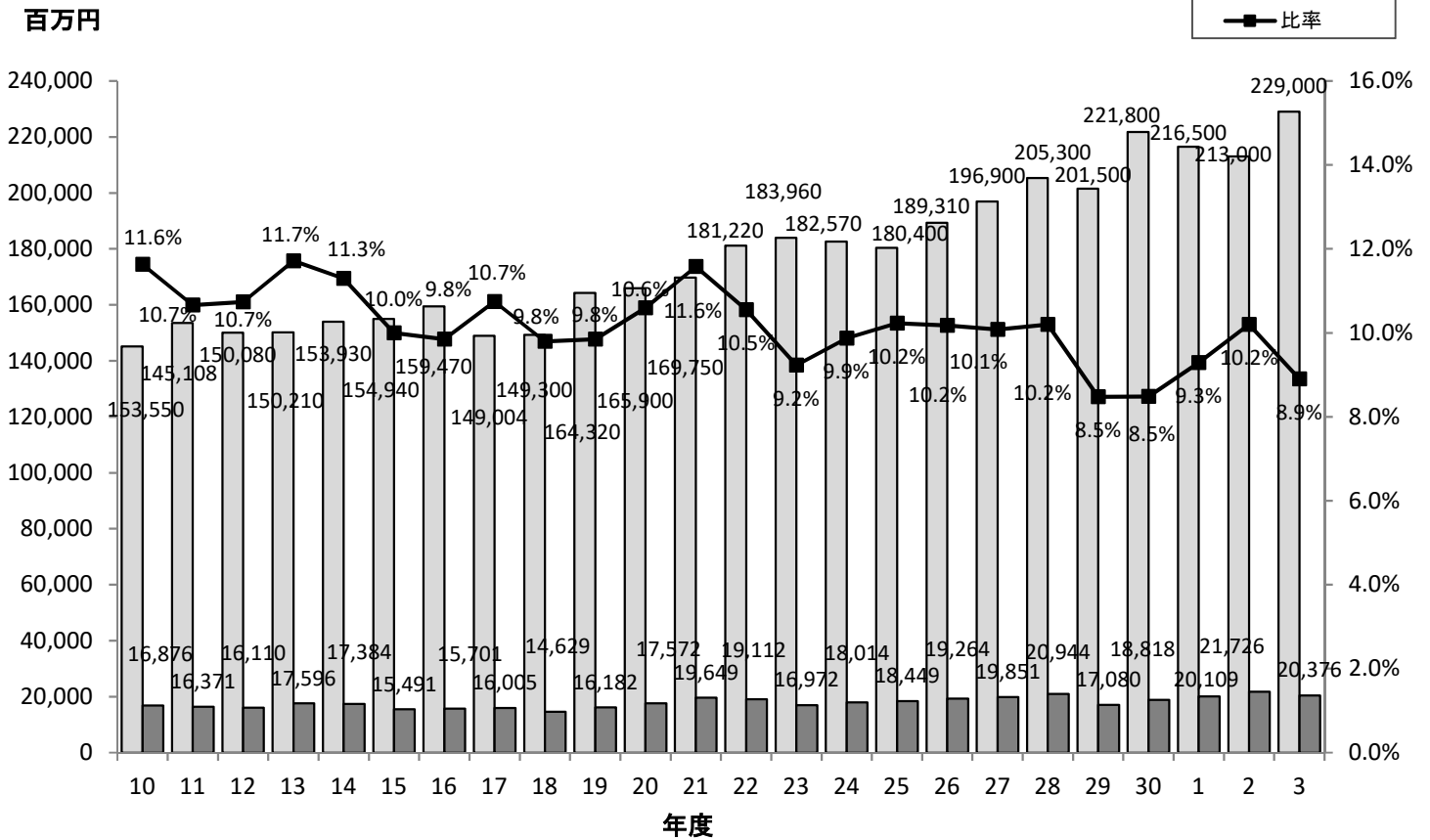
(※3)主要な構成事業の進捗状況 A:計画以上(構成事業2事業以上が計画通り) B:計画通り(主に構成事業4事業以上が計画通り) C:計画より遅れ(構成事業2事業以上が計画より遅れ)

(※4)総合評価 順調:90点以上(A評価が2つ以上(C評価がある場合を除く)) 概ね順調:75~90点未満(主にB評価が3つ以上) やや遅れ:75点未満(C評価が2つ以上(A評価が2つある場合を除く))

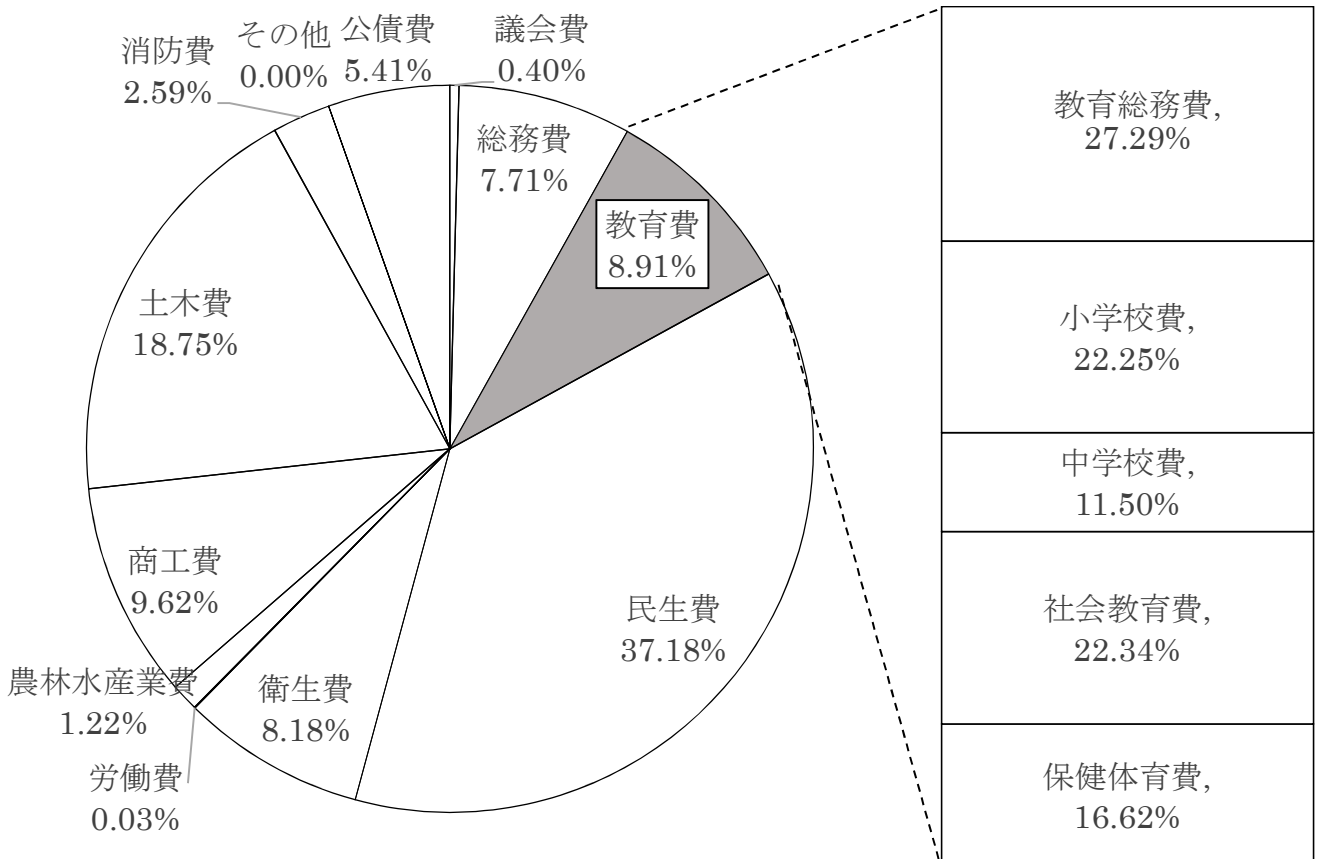
* 配点の区分 A(25点) B(20点) C(15点)

【一般会計予算と教育予算】

市一般会計予算と教育予算の推移



市一般会計予算と教育予算の内訳（令和3年度）





社会総ぐるみによる人づくりの『合言葉』

「育もう 地域の愛で 子どもの未来」

～大人が子どもの手本となり、みんなで人間力を高めます～

宇都宮市・宇都宮市教育委員会

令和4年度宇都宮市教育委員会点検・評価報告書

発行年月 令和4年8月

発行 〒320-8540

宇都宮市旭1丁目1番5号

宇都宮市教育委員会事務局（教育企画課）

電話 028-632-2707

FAX 028-639-7159

Eメール u4612@city.utsunomiya.tochigi.jp